

地域経済の見方 と 出雲市版総合戦略

岡山大学大学院
社会文化科学研究科・経済学部
中村良平

総合戦略で(市町村に)求められていること

国の総合戦略

- 地方における安定した雇用の創出
- 地方への新しいひとの流れをつくる
- 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

地方の戦略

- 地方は、これらに向けて具体的な施策の基本方向を打ち出す
- 5年間の内に具体的に実施する施策を検討し盛り込む
- 数値目標、成果指標、効果の計測
- 施策についてはKPI(重要達成度指標)を設定する

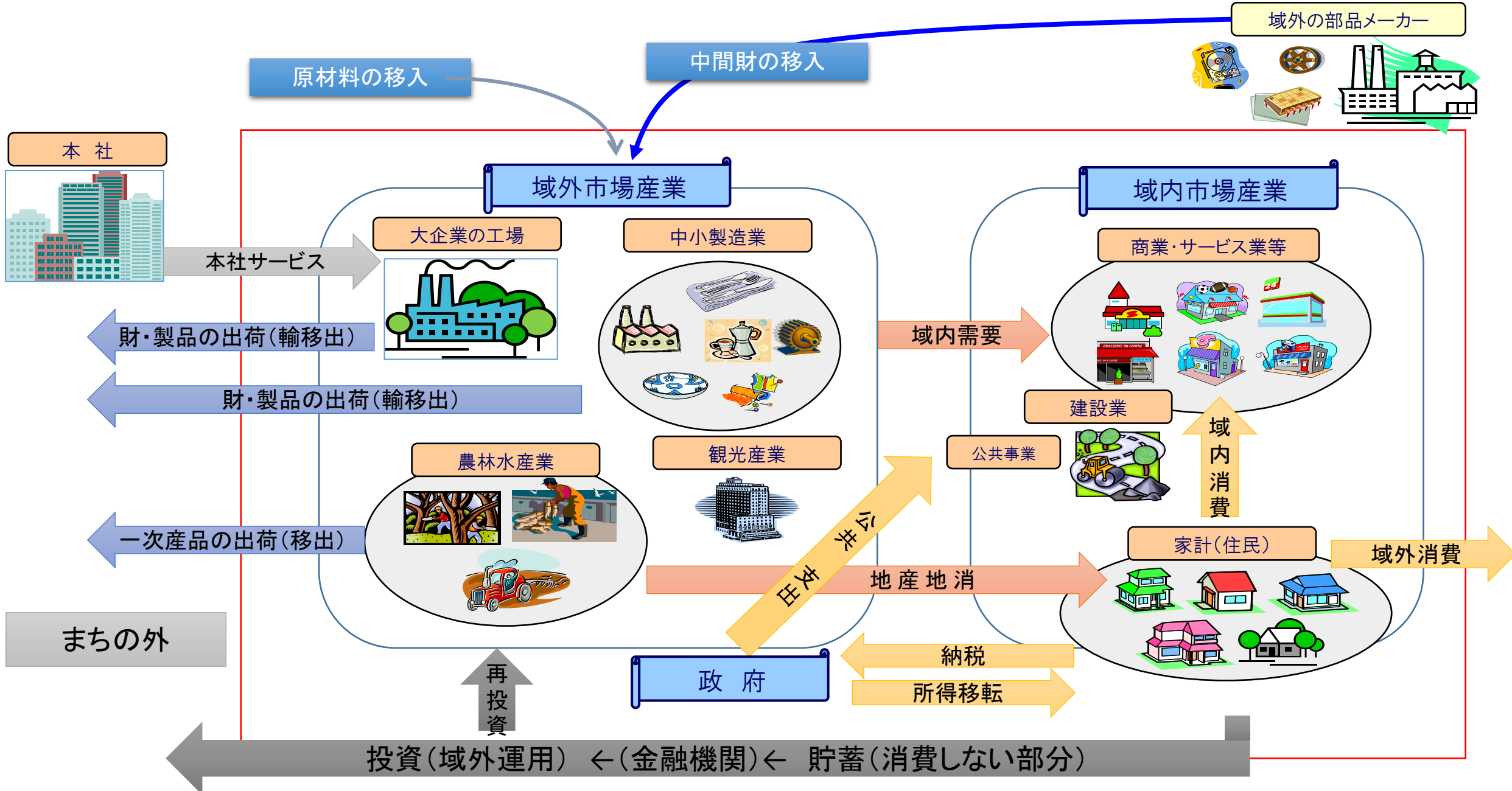
市町村の役割

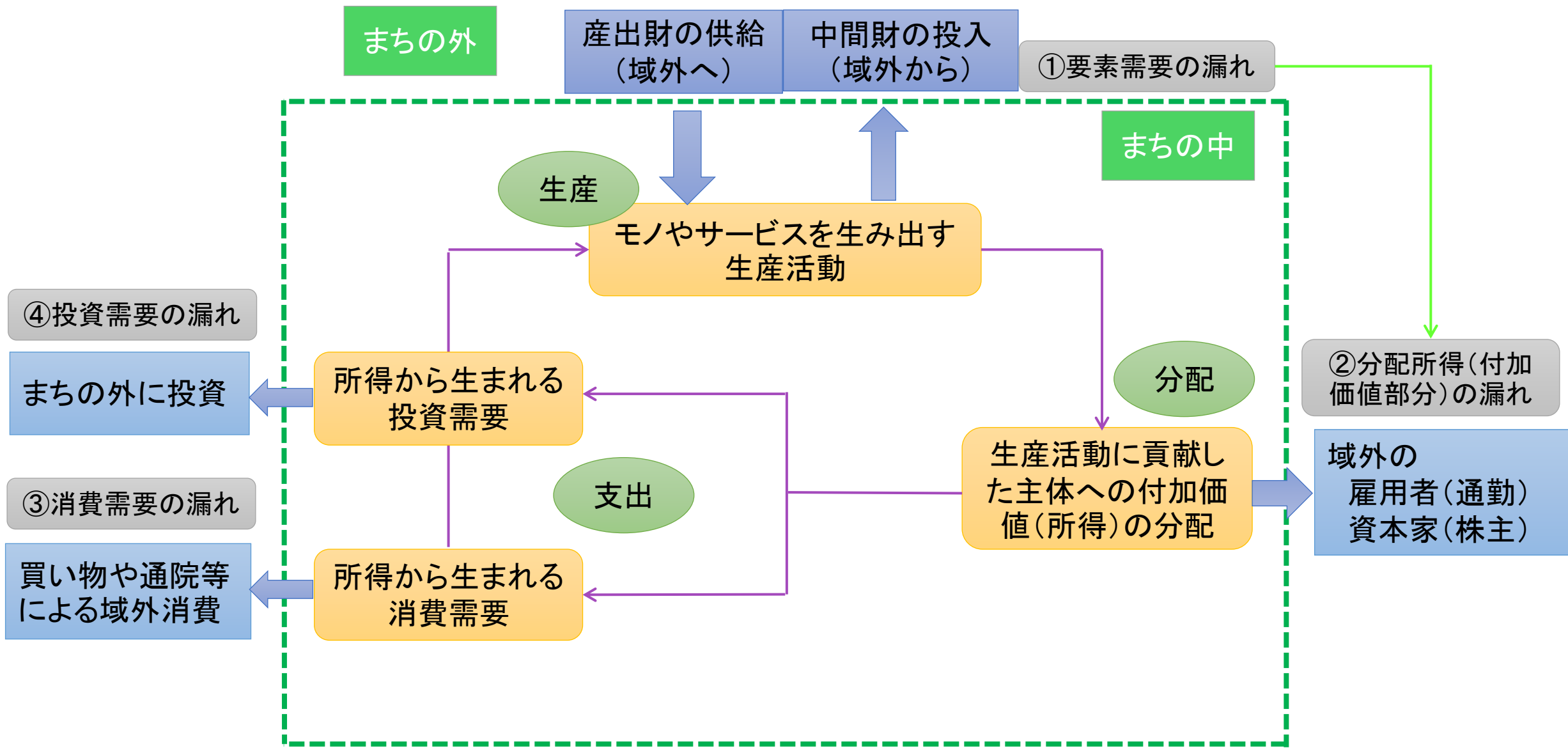
- ① 地域の特色や地域資源を活かした住民に身近な施策
- ② 市町村間連携



それにはまず、まちの経済の仕組みを！

まちの経済循環システム





注) 公的部門のフローは描かれていない

← お金の流れ

$S > I, S = Y - C$
貯蓄超過(資金余剰)の場合、域外の資本市場で運用

まちの外に投資
まちの外に設備投資

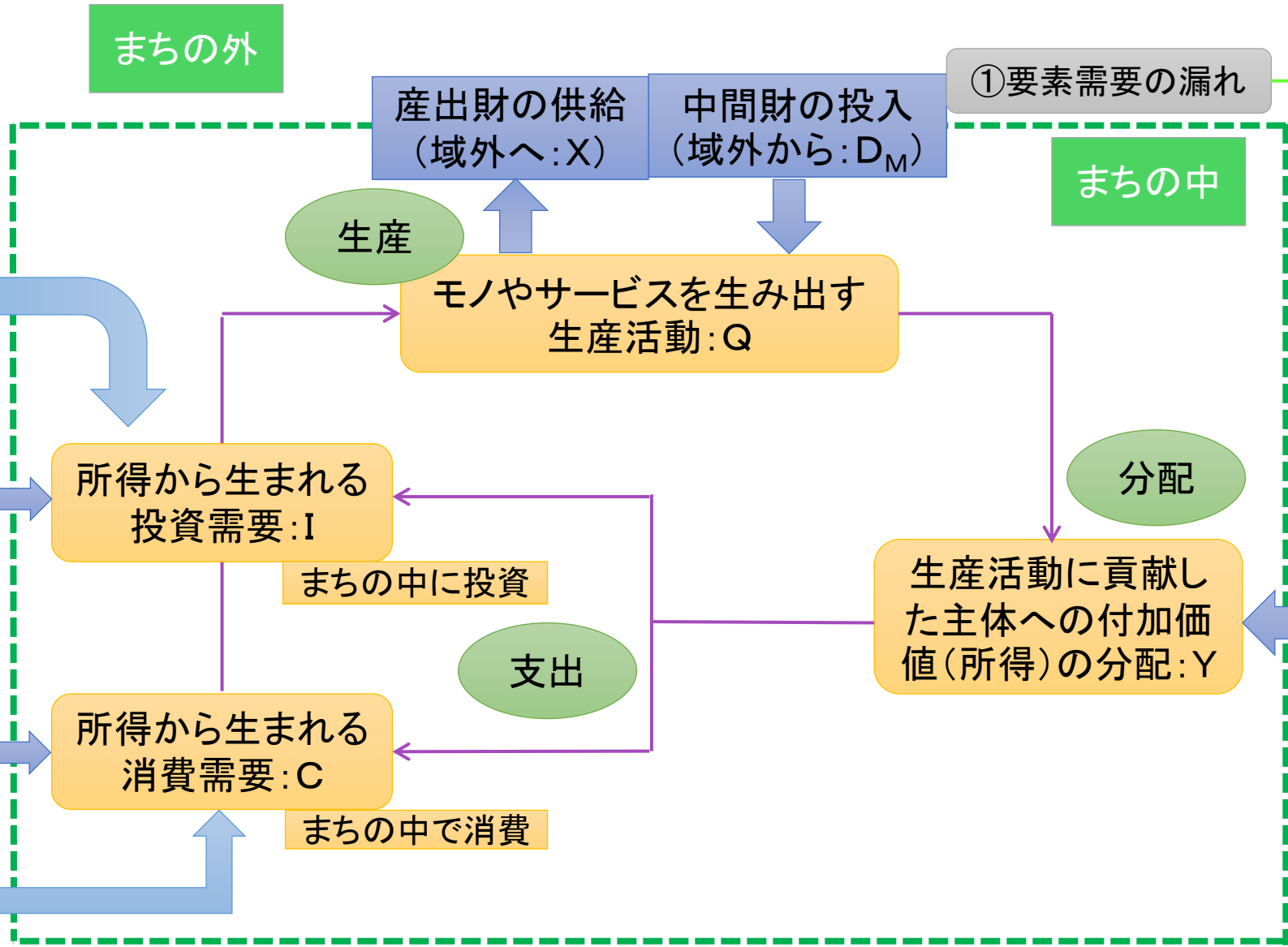
④投資需要の漏れ

投資材の域外からの調達: I_M

③消費需要の漏れ

消費財の域外からの調達: C_M

買い物や通院等による域外消費
まちの外で消費



①要素需要の漏れ

まちの中

②分配所得(付加価値部分)の漏れ

域外の雇用者(通勤)資本家(株主)

企業G内の移転(本支店勘定)
・本社・親会社への(からの)資金移動
個人同士の移転
・家族への仕送り

注) 公的部門のフローは描かれていない

物や人の流れ

地域経済構造分析の流れ

I 地域(圏域)の設定

分析の対象地域、地域政策の誤謬

II 地域経済の状況

人口、雇用、賃金、所得、税収

III 地域経済構造の識別と相互の関係

基盤産業、基幹産業、雇用吸収

相互関係と動向

IV 地域経済の連関と循環

(1) 連関構造: つながり

(2) 循環構造: めぐる

V 地域経済のポートフォリオ

地域経済の安定性・頑健性

VI 地域経済のストック分析

I

解説 86～89頁

事例 116～117頁

II

解説 89～92頁

事例 118～126頁

III

解説 93～105頁

事例 127～137頁

IV(1)

解説 106～107頁

事例 135～142頁

IV(2)

解説 107～111頁

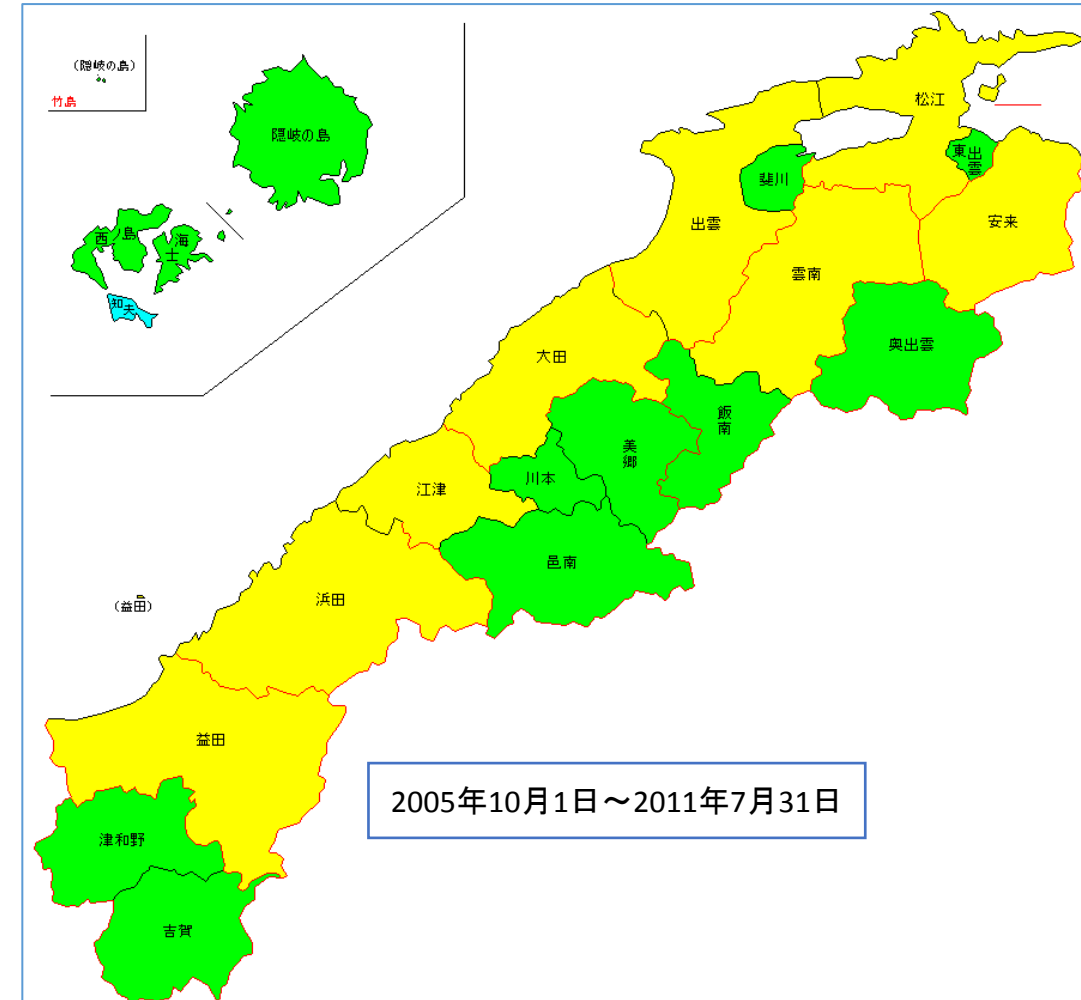
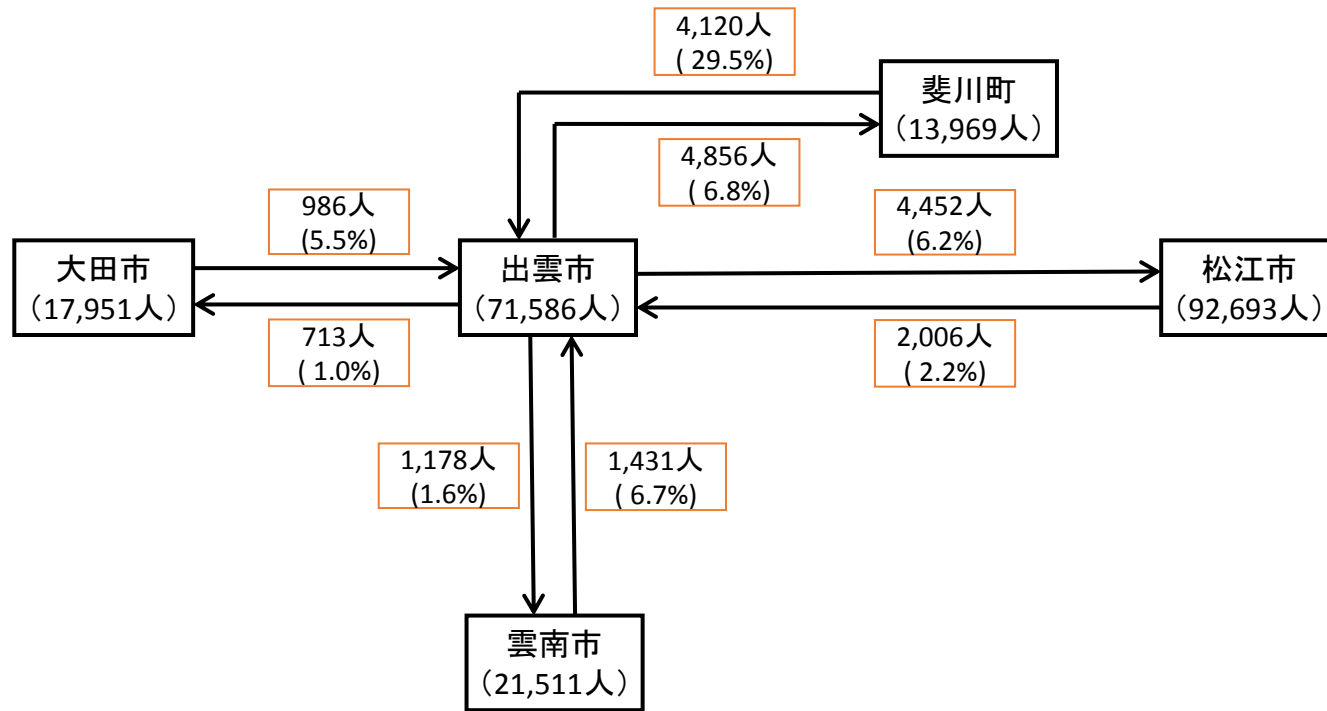
事例 193～195頁 (浜田市)

V

解説 111～114頁

in 「まちづくり構造改革: 地域経済構造をデザインする」

I. 地域(圏域)の設定: 出雲市を中心に見た通勤流動

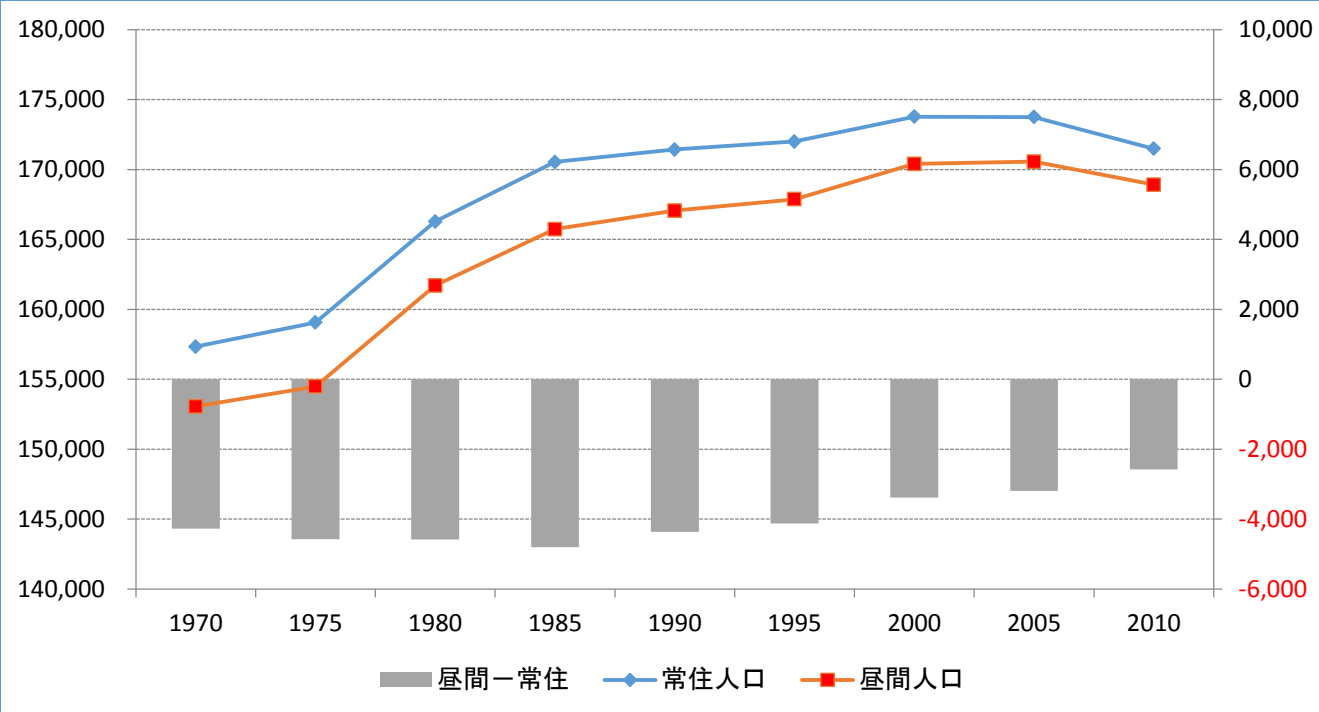


市町村名の下に数字は常住就業者数。赤枠内の数字は通勤者数、括弧内の%は通勤流出率。国勢調査(2010年)

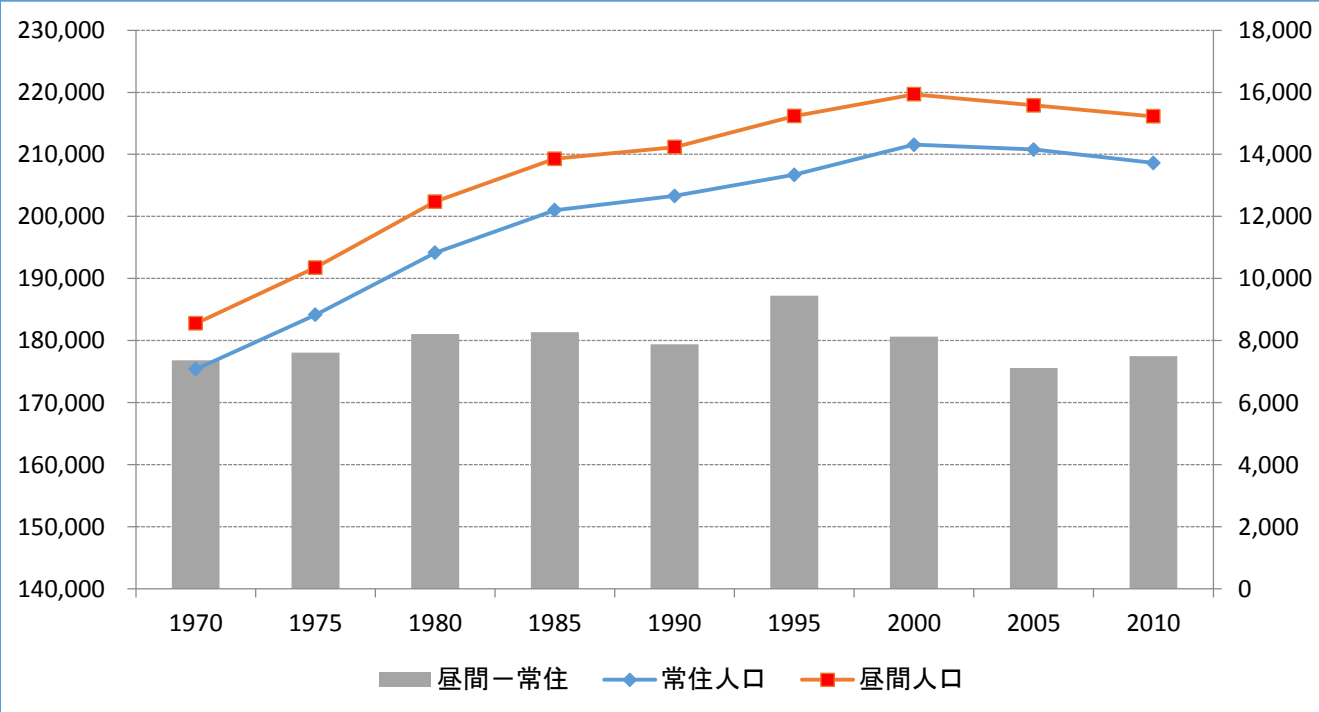
Ⅱ．地域経済の状況：出雲市を中心に見た人口動向

- ① 常住人口と昼間人口
- ② 都市発展段階：出雲市の中心と郊外
- ③ 中心市街地の動向：DID人口、DID面積
- ④ 自然増減と社会増減
- ⑤ 年齢階層別人口：人口構成 2000年と2010年
- ⑥ 人口の転入元市町村と転出先市町村
- ⑦ 男女別・年齢階層別の人口移動

出雲市の常住人口と昼間人口の推移

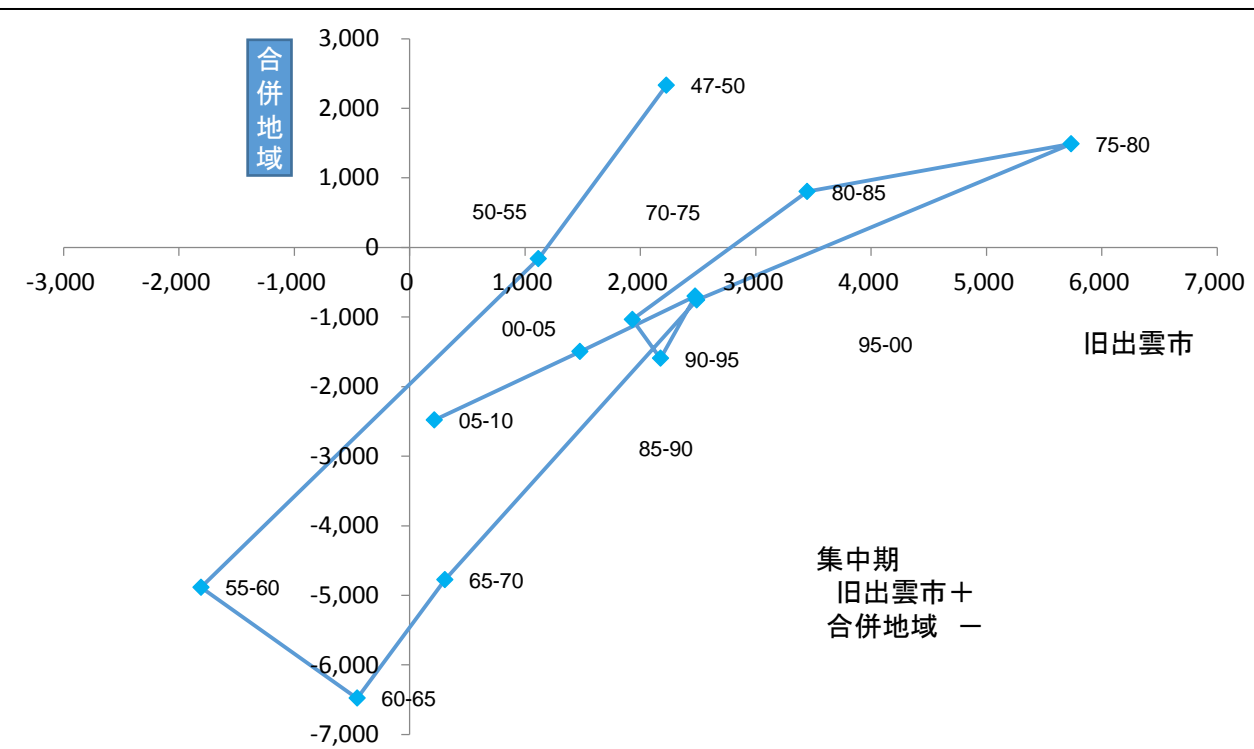
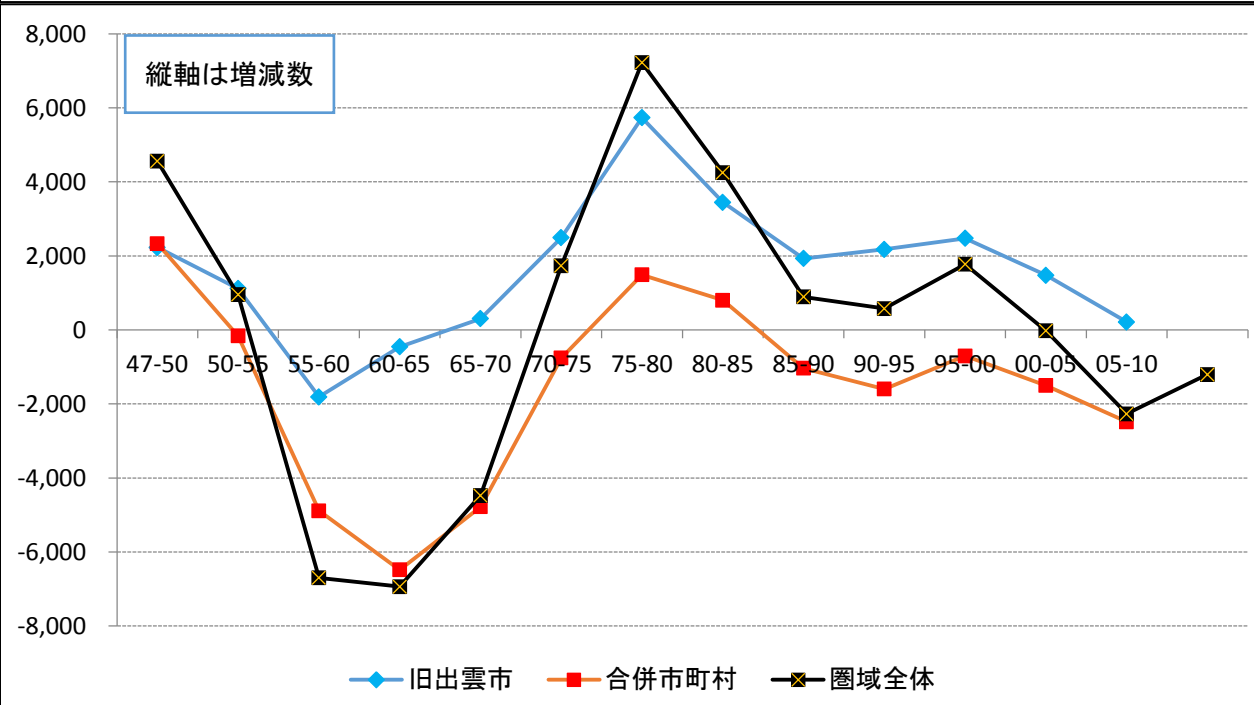
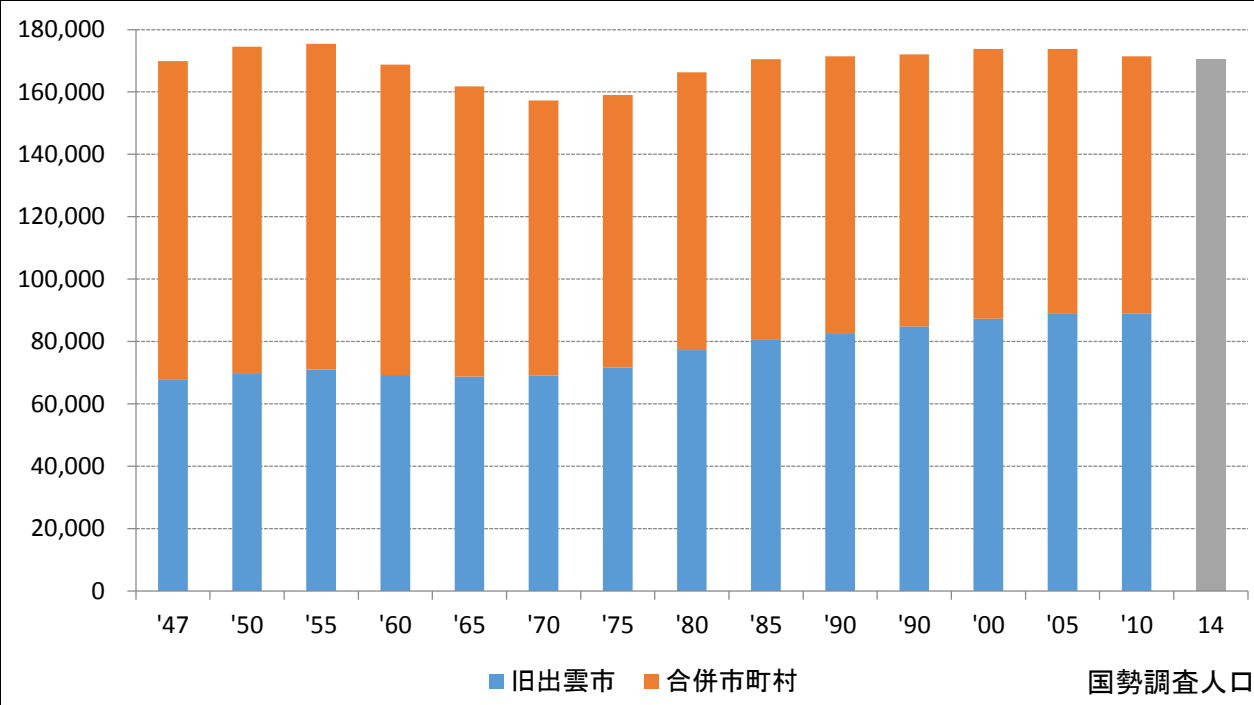


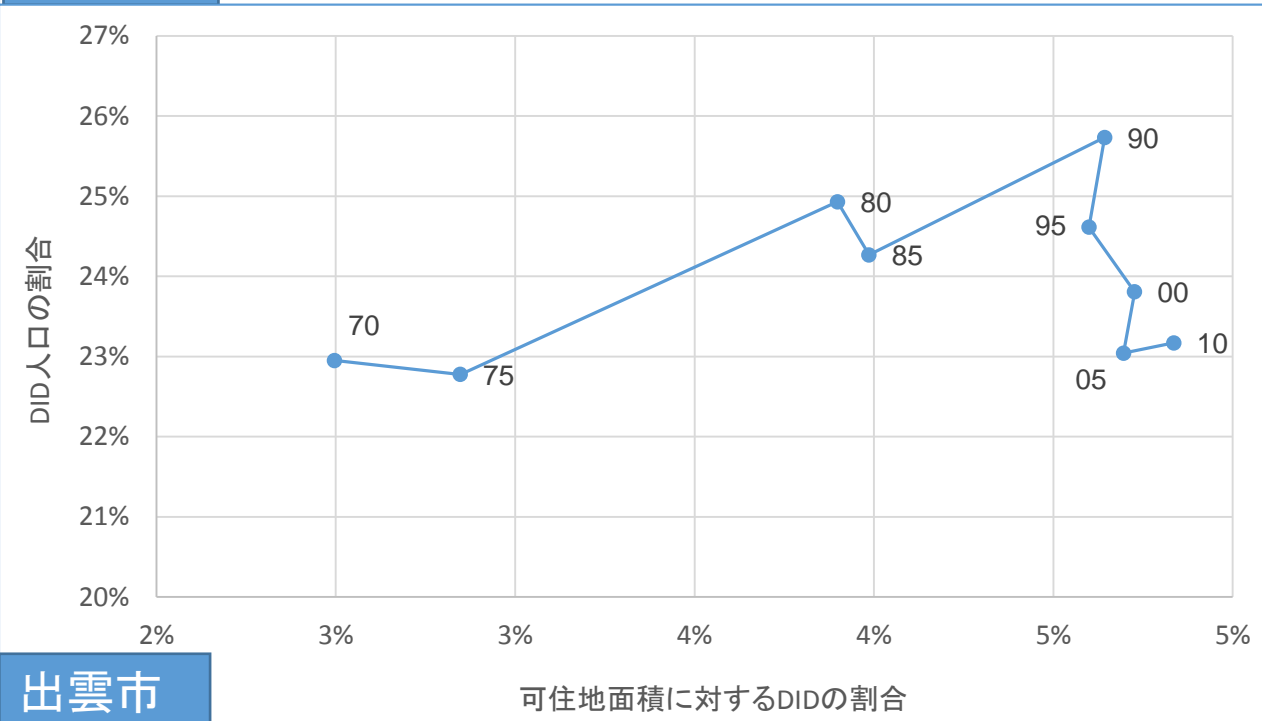
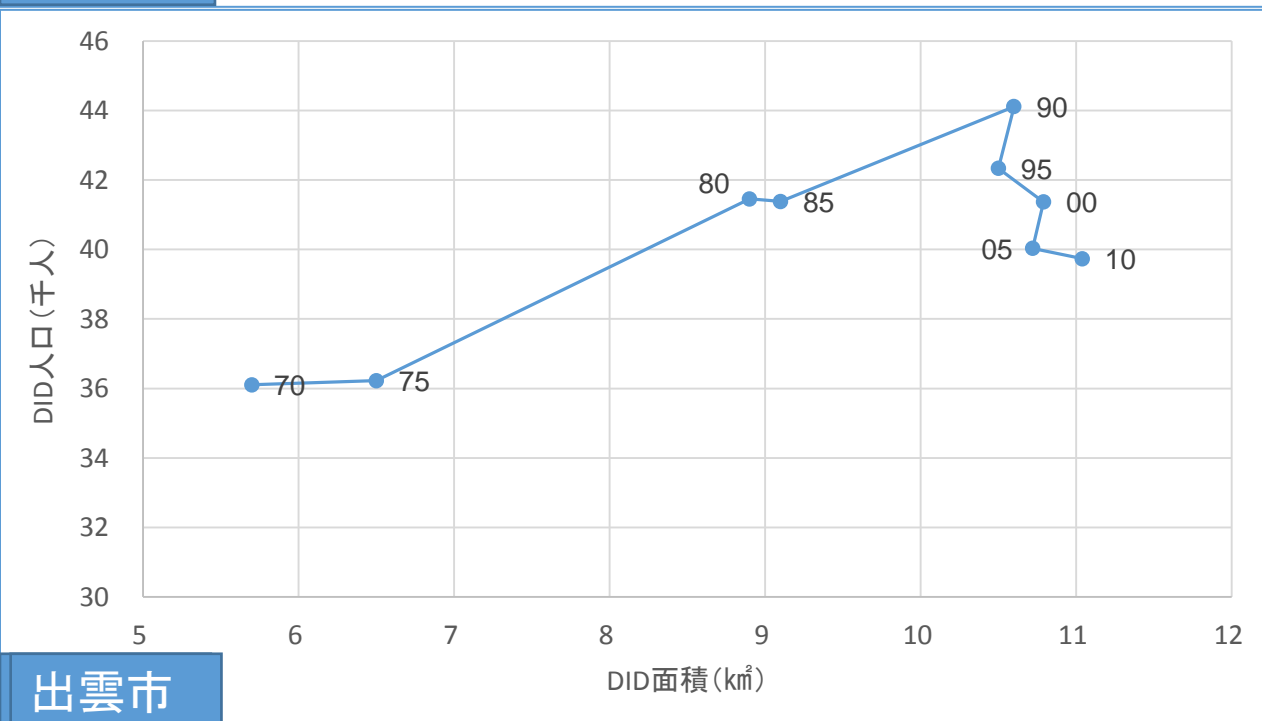
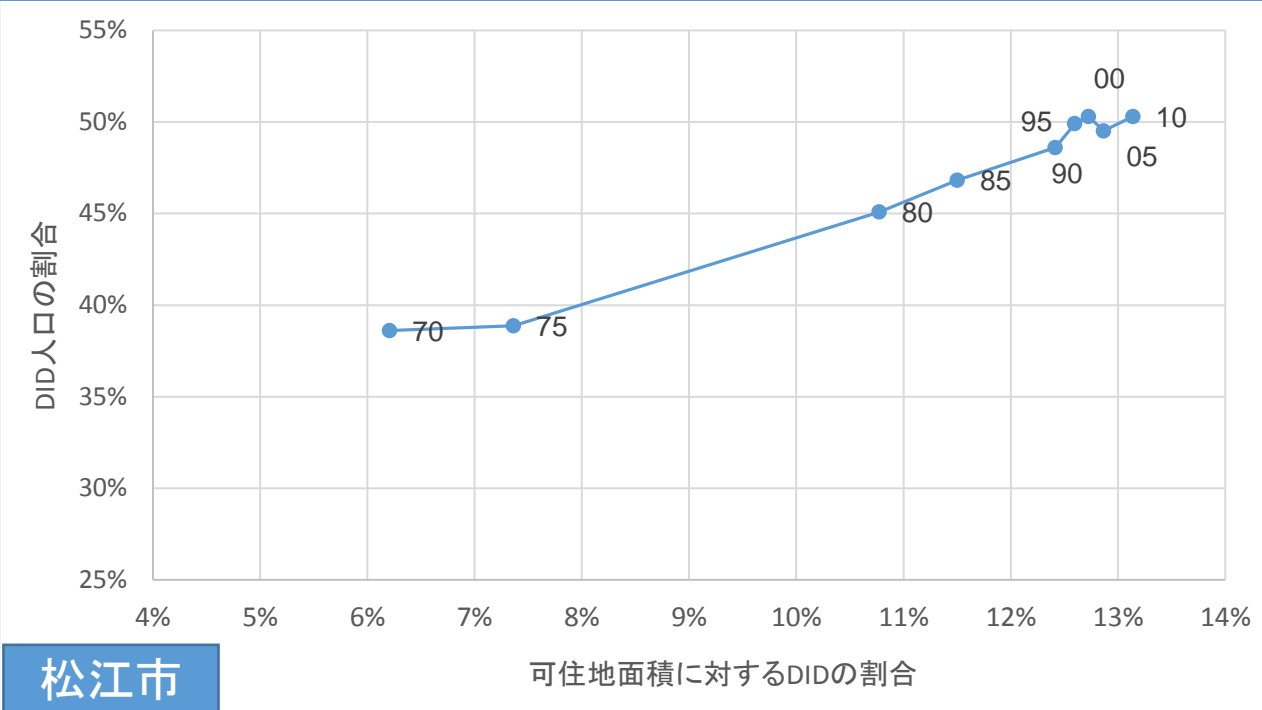
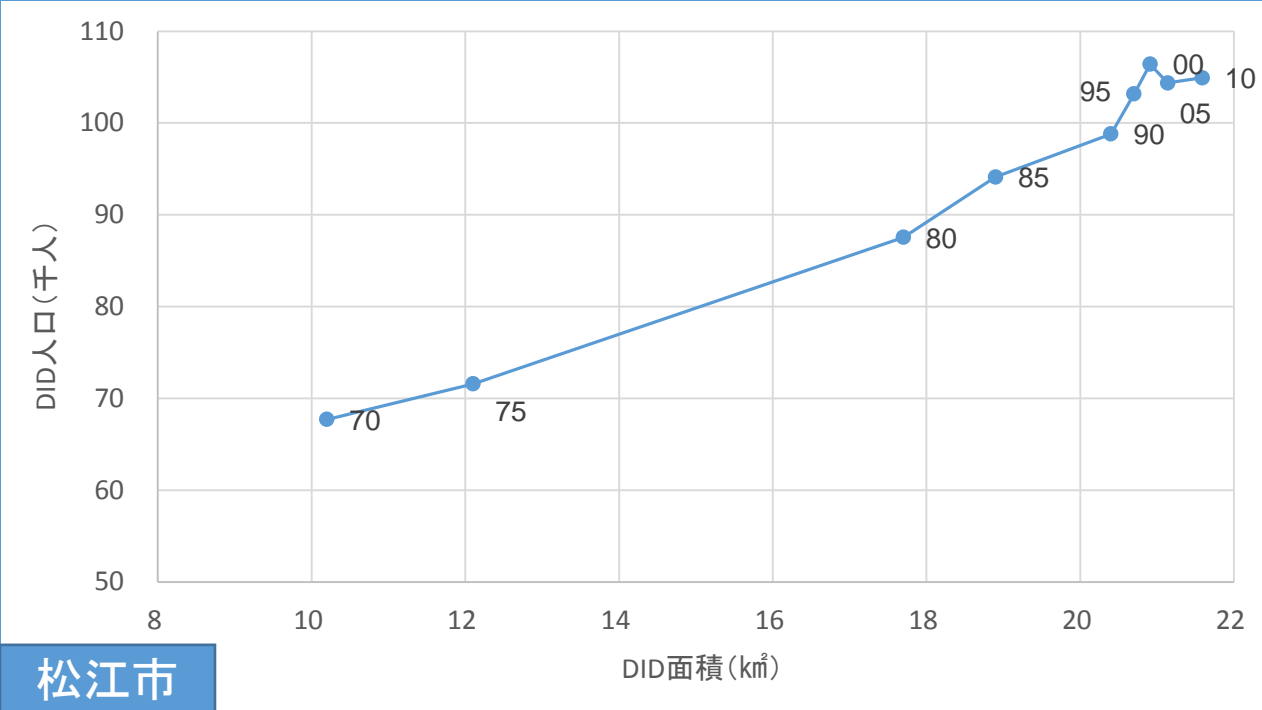
松江市の常住人口と昼間人口の推移



市域は、現時点の市域

出雲市の人口発展段階

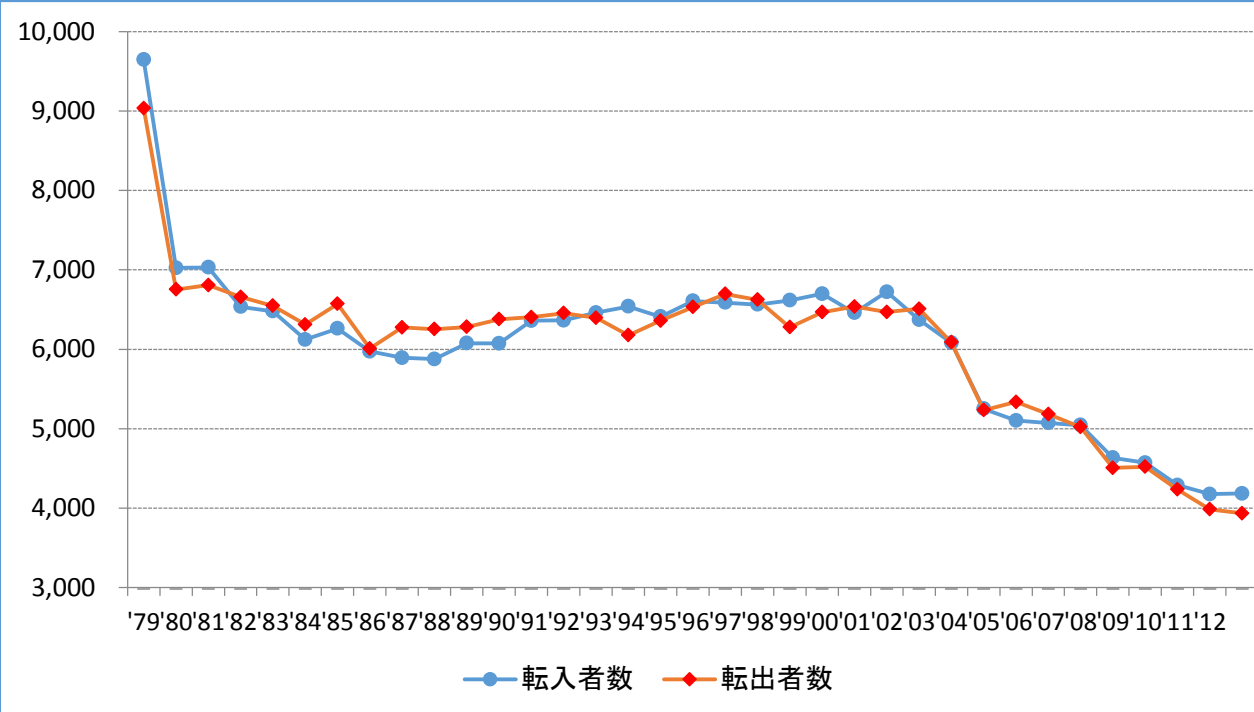
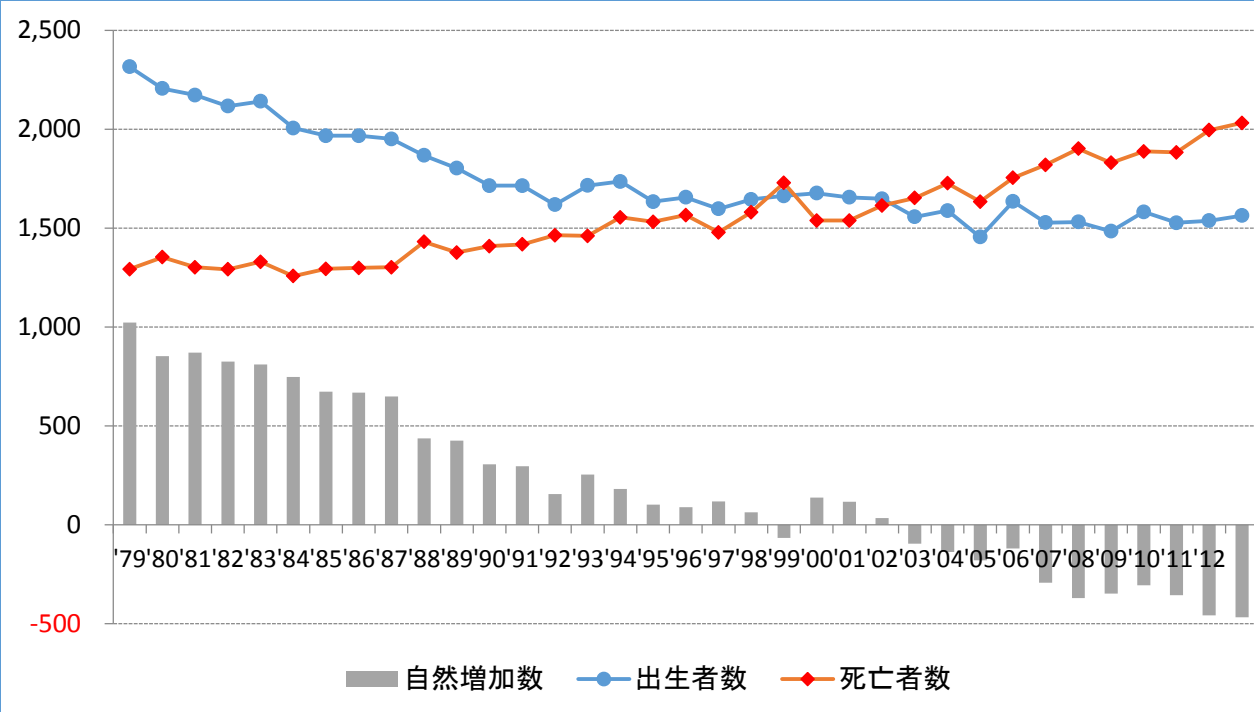




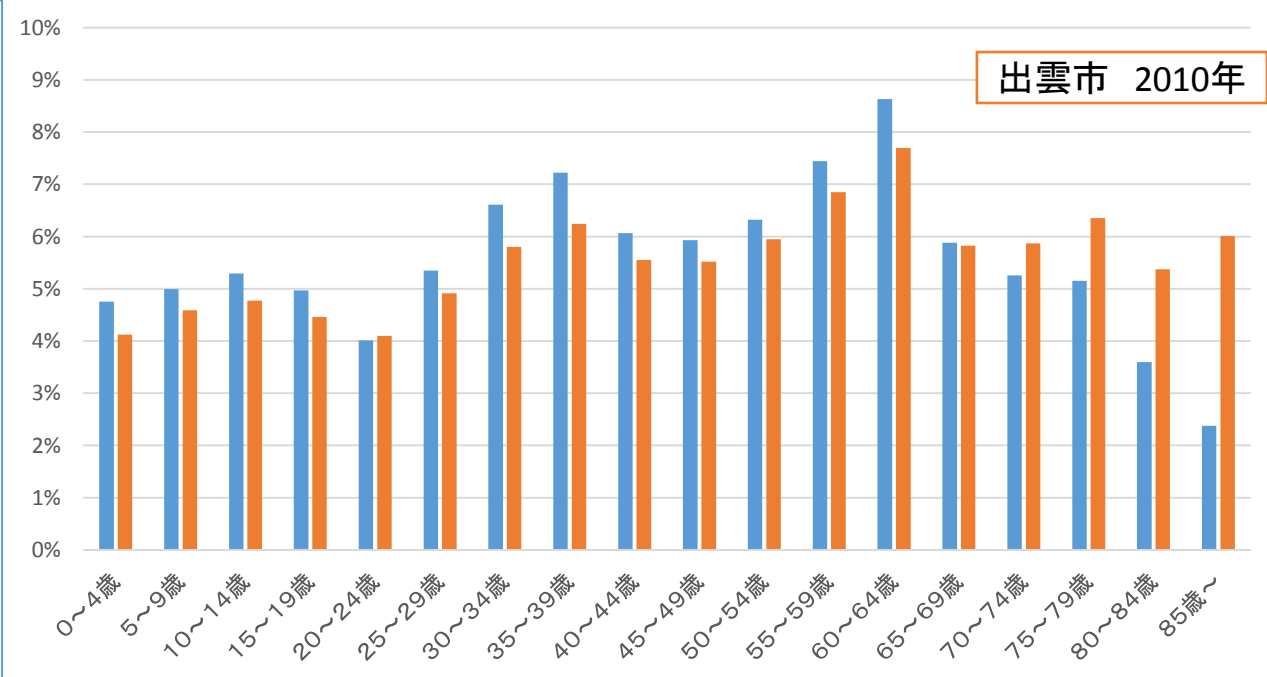
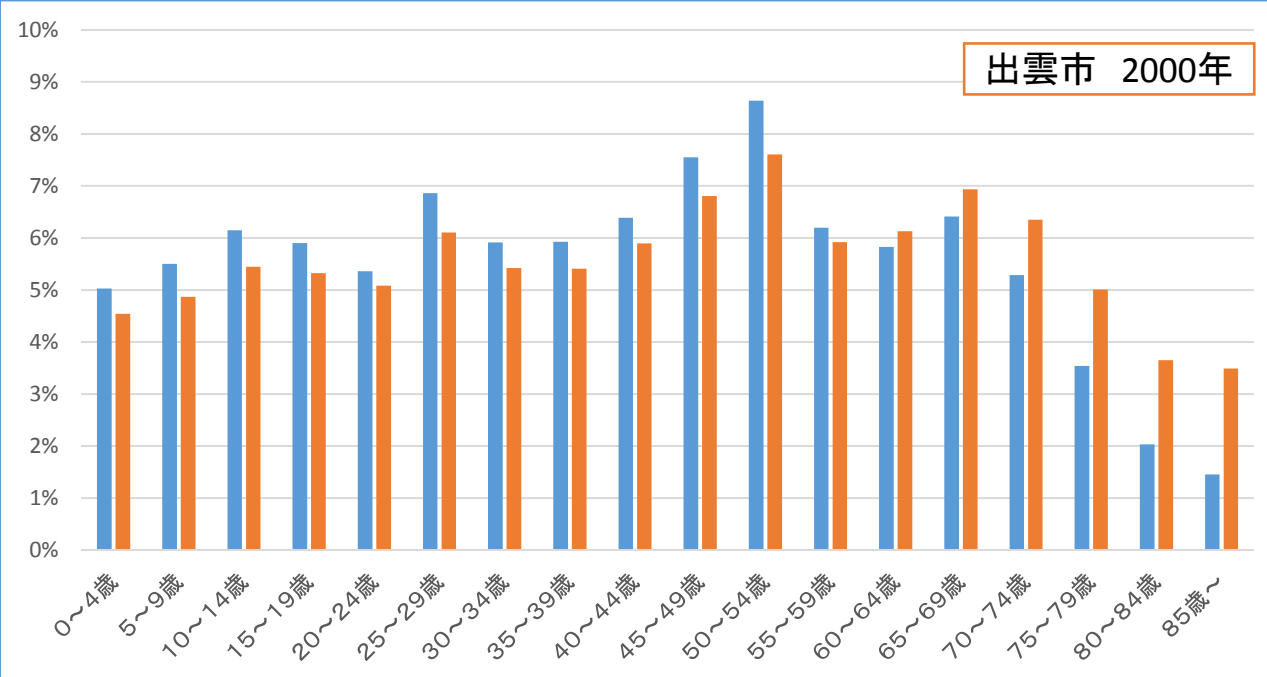
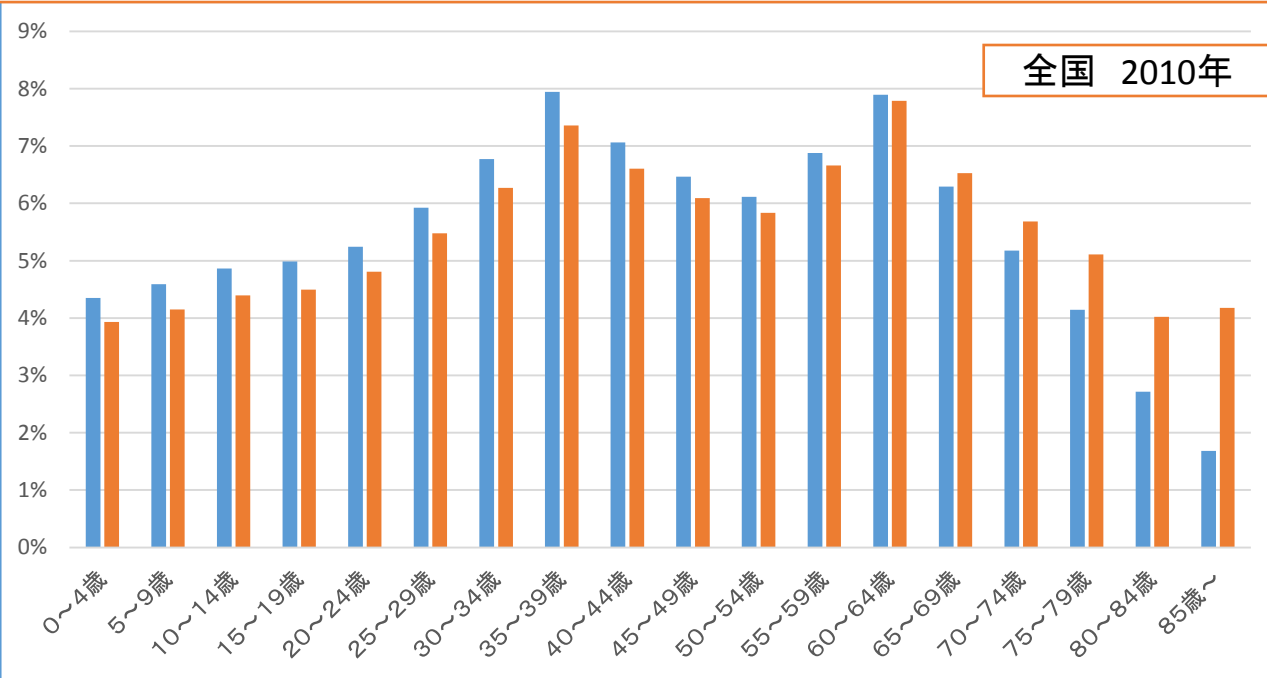
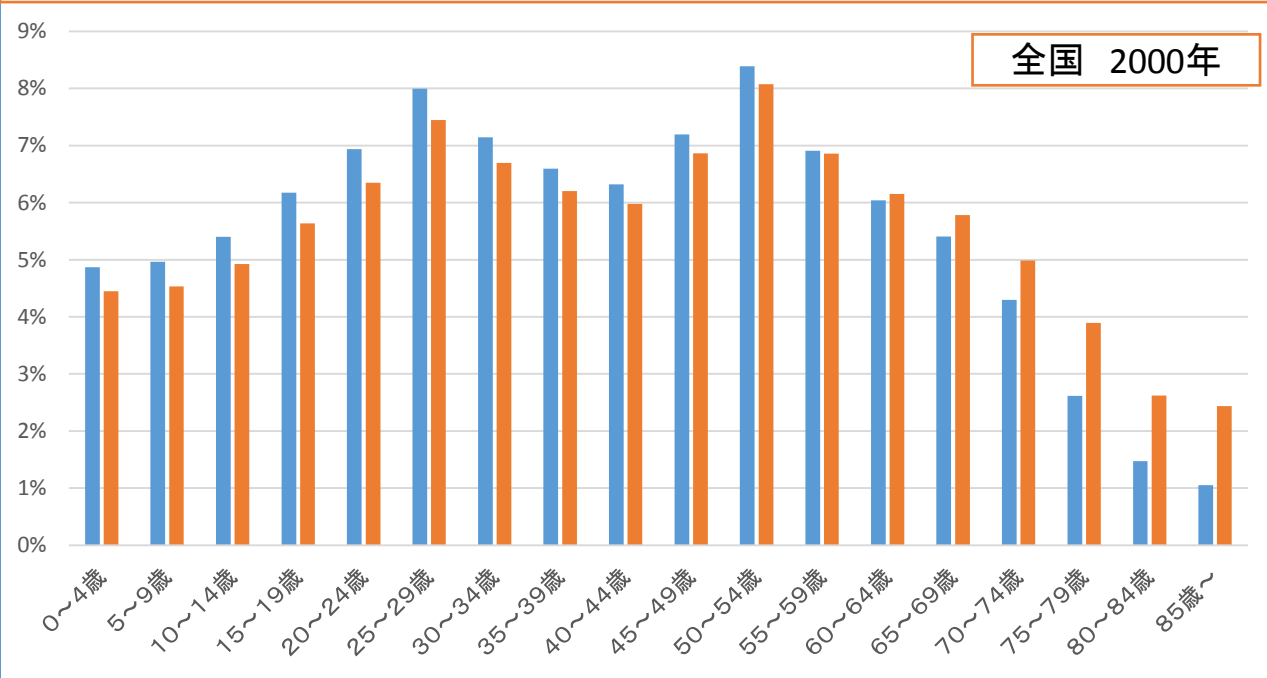
出雲市の人口動態

2003年度(平成15年)以降は、出生を死亡が上回っており、その差は拡大傾向にある。

転入者数と転出者数は拮抗している。最近では、転入者が増加気味。

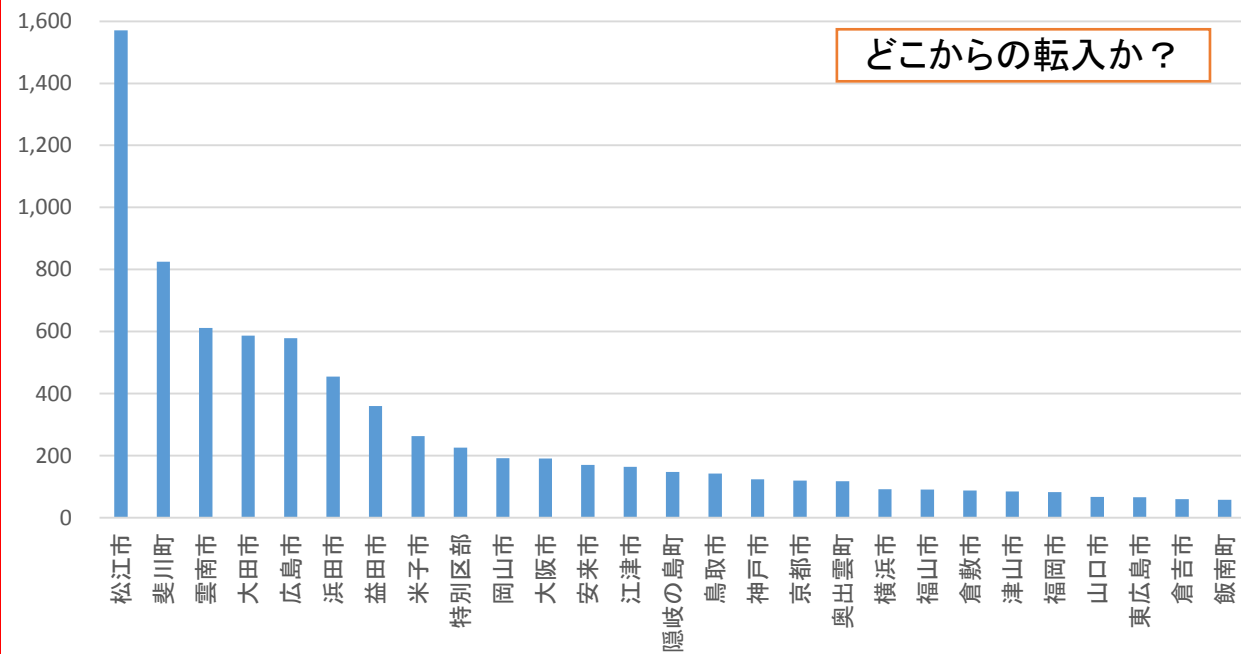


年齢階級別 男女別 人口構成比 2000年 と 2010年

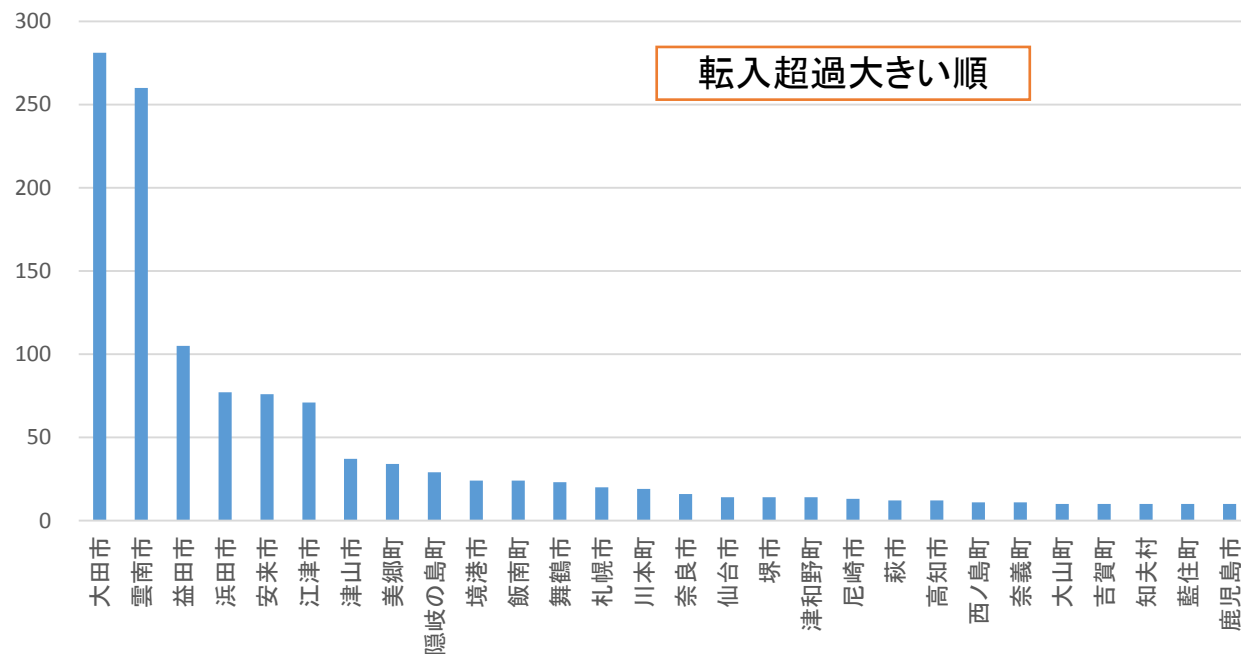


地域別 人口移動 2005～2010

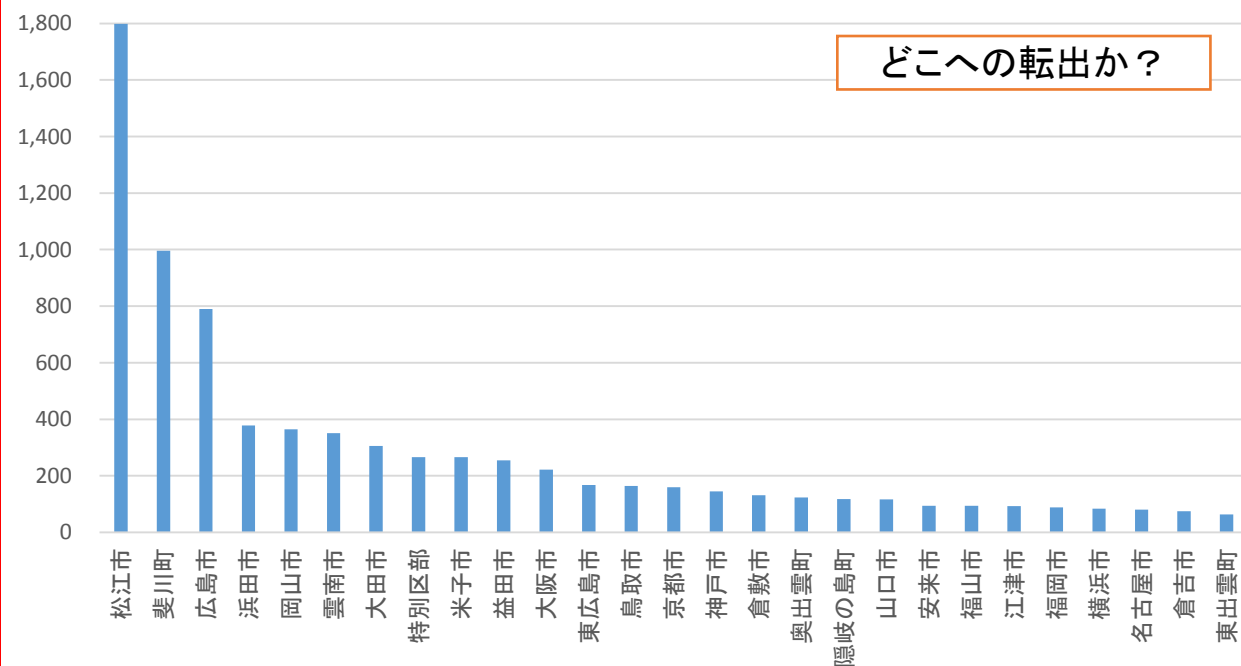
どこからの転入か？



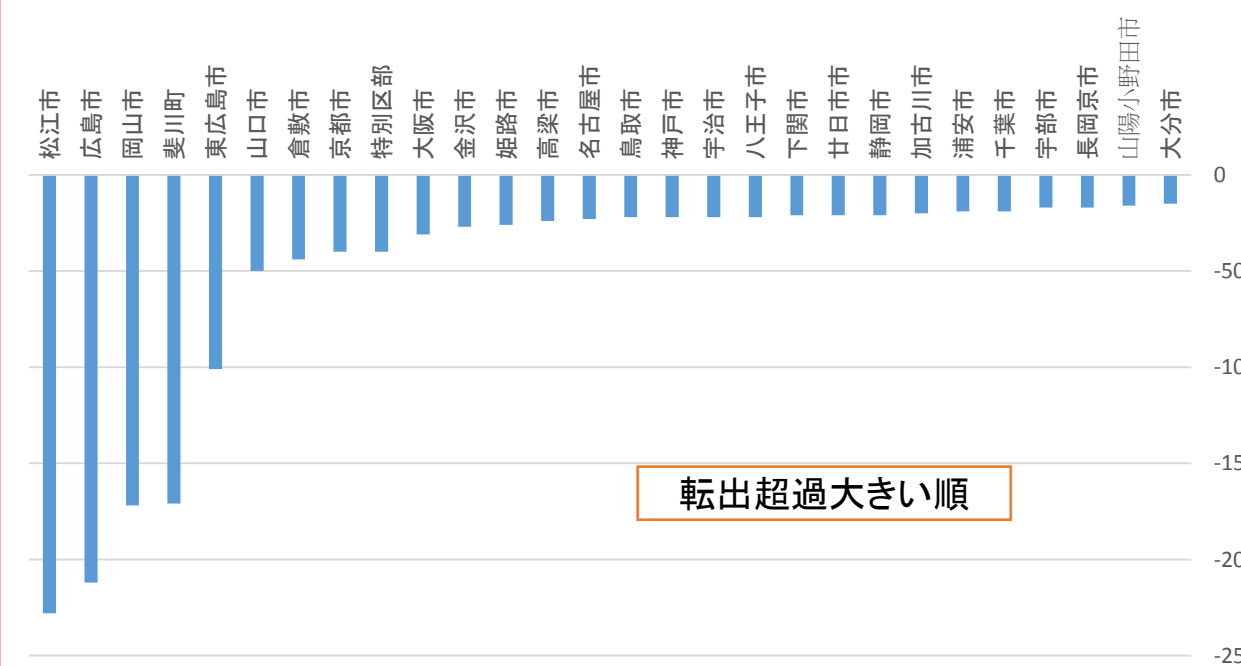
転入超過大きい順



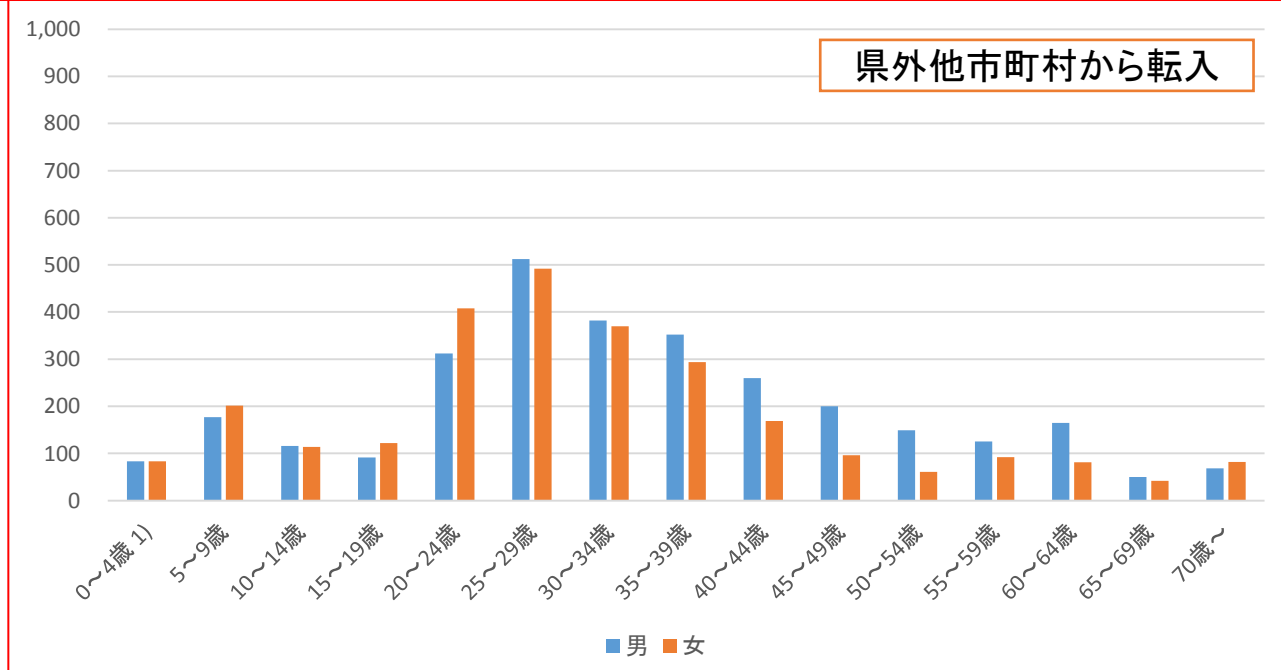
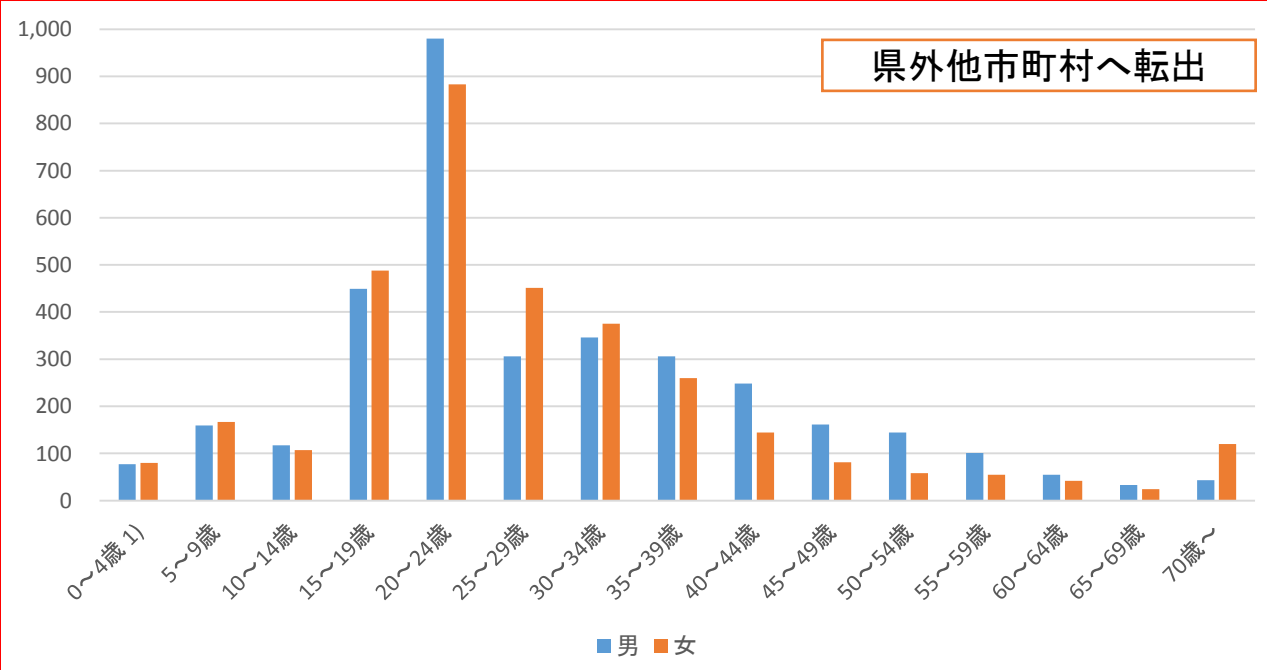
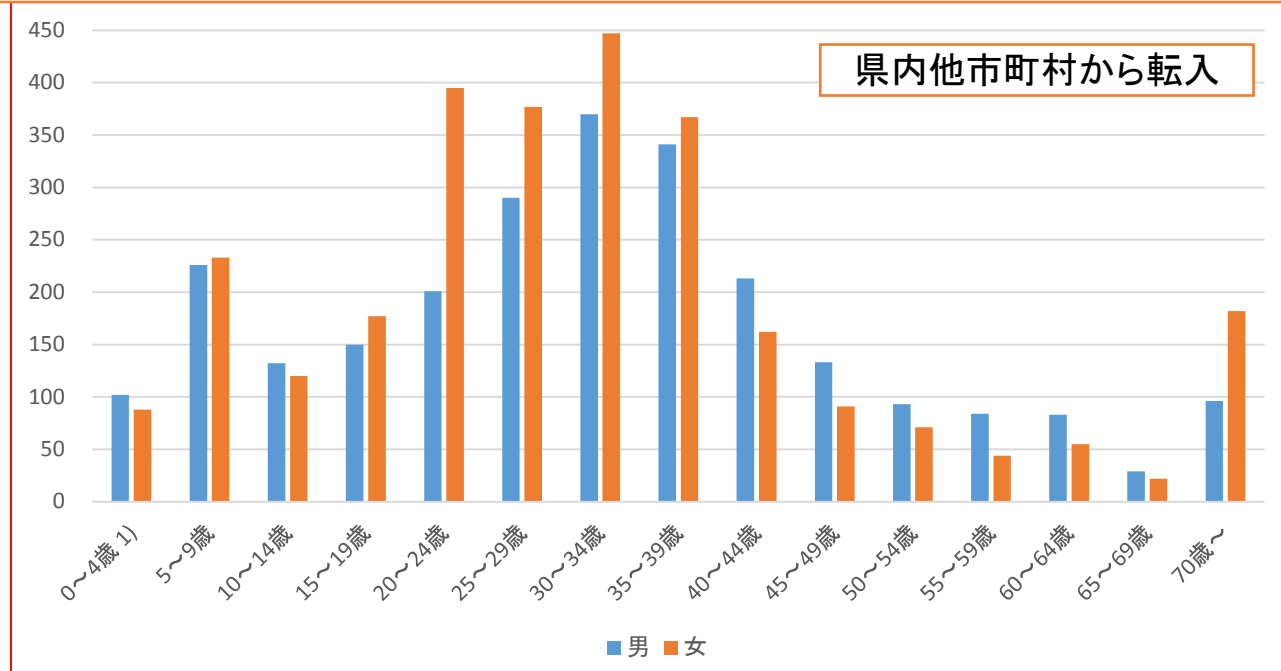
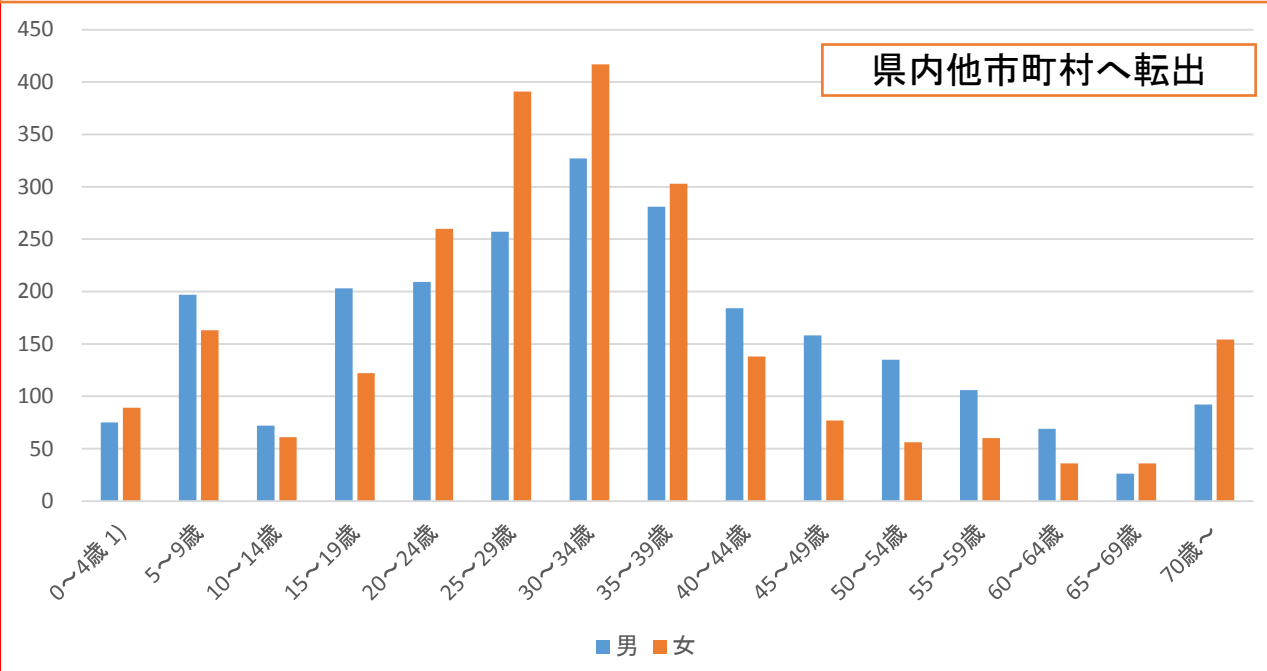
どこへの転出か？



転出超過大きい順



年齢別 県内外別 男女別 人口移動 2005～2010



人口施策の展開に向けて

- 今回、「地方版総合戦略」の策定に当たって、国は「地方版人口予測」や「政策効果の客観的な予測や検証」を求めています。この大きな背景には、社会減と自然減に伴う地方経済の維持不可能があります。
- このためには、地域振興における全ての施策を、「人口増加あるいは人口維持に絡めていくこと」が必要です。つまり、人口維持という大枠の中で、様々な地域振興策が練られ、その評価がなされていき、それが人口に反映するというストーリーです。
- たとえば、経済学で言うと労働と資本は二大生産要素です。これらは、大いに地域間を移動します。資本であれば、工場移転、工場立地、大型店の出店や撤退がそれに当たります。労働であれば、それは正に人口移動です。これまで多くの自治体は企業誘致に力を注いできましたが、人の誘致にはあまり関心は注がれてきませんでした。
- 資本はその収益率(収益÷投資)の高いところへ移動します。労働は賃金の高いところへ移動します。雇用機会が多い所に行くと言われるかも知れませんが、雇用機会が多いところは、労働需要が強いので賃金は高くなります。勿論、賃金(雇用機会)だけではなく、非年金層にとって、これは移動要因の8割以上を占めると考えられます。
- 人口移動を人の誘致と考えましょう。若年層の誘致に成功すれば、それは出生率の上昇につながります。元気なUターン組の誘致に成功すれば、死亡率が低下します。様々な階層の人が入ってくると、刺激が出て健康寿命も延びるでしょう。Uターンは、経験や知識、技能を持った人の人材誘致でもあり、生産に寄与します。また、まちの六次産業化に成功すれば健康寿命も伸びて死亡率も低下するでしょう。
- まちに仕事を創り出せば、転入が増えるでしょうし、転出は減るでしょう。

人口施策の展開に向けて

- 出生者数や死亡者数の予測は困難ではありませんが、転入・転出といった社会増減の予測は難しいです。
- 労働需要側からすると雇用機会。労働供給からすると住宅供給などまちの移住支援が考えられます。
- これを知るには、この3月～4月において、住民票の記載場所で、転入と転出の理由を尋ねるアンケートを是非実施して下さい。

転入理由の場合は、

卒業後帰郷、退職後帰郷、都会の暮らしからの脱出、豊かな自然を求めて、農林業に就業、退職後1ターン、結婚、家業継承、離婚、転勤、親族を介護するため、財産相続(管理)、介護施設に入所、まちの諸施策が充実、子育て支援対策が充実、災害に強いまち 等々

転出理由の場合は、

進学、就職、転勤、結婚、離婚、新天地を求めて、介護施設等に入所、親族を介護するため、財産相続(管理)、他の市町村の諸施策が充実している、他の市町村の方が子育てしやすい、家賃が高いから、生活に不便だから、住みにくいから 等々

Ⅲ. 地域経済の構造の識別と相互の関係

- ① 識別の基本概念
- ② 識別の必要性
- ③ 指標間の相互関係
- ④ 稼ぐ力と雇用力の関係
- ⑤ 出雲市の製造業 2013年

産業構造の識別: 基本概念

基盤産業(移出産業)の識別 Basic(Export) Industry

域外を主たる販売市場とした産業で、移出産業(域外市場産業)といわれ、一般に農林水産業、製造業、宿泊業が該当するが、大都市ではサービス業も移出産業として成立している。外貨獲得産業である。

純移出産業の識別 Net Export Industry

移出産業(域外市場産業)が基盤産業として認識される場合が多いが、原材料や中間投入財の多くを移入に依存する製造業の場合は、たとえ域外から獲得するマネーが大きくても出ていくマネーも少なくない。地域にとって所得を増やすのは域際収支のプラスが大きい純移出産業である。

基幹産業の識別 Principal Industry

域内で生産額の大きな割合を占める産業。すなわち、付加価値を多く生み出している産業を意味し、これが地域の分配所得、そして地方税収の源泉となる。

雇用吸収産業の識別 Agglomerated Industry

ほとんどの地方都市では、飲食業、小売り業、サービス業などが中心となって雇用を吸収している。しかし、これらの分野は、常用雇用の割合は低く、パートやアルバイトが多い。建設業も雇用を吸収してきたが、最近の公共事業減で低下してきている。観光以外では、これらの産業は域内の所得を循環させる役目を持っている。

なぜ、このような識別をする必要があるのか？

自立した地域経済になるには

- 地域資源を有効活用(比較優位性)することで、
- 域内に資金を呼び込む力(移出力)を具現化し、稼いだ資金を域内で循環できる
- 域内の資金の流出を防ぐ力(循環性)を身につけるために
- 地域経済に安定性(弾力性)をもたらす経済構造にもっていく

域外マネーを稼ぐ産業、つまり基盤産業は何か。
それが、雇用を吸収する産業と結びついているか。
雇用は吸収しているが、生活の源泉になる付加価値は大きいのか。

しばしば、どうして域外マネーを稼ぐ必要があるのか、域内循環を充実すれば十分ではないか。それは里山資本主義の原点である。こういった議論もあります。しかし、人口が増えない社会でも、使っている資本は減耗します。生産を維持するには更新投資をするマネーが必要です。また、自地域で自足できているか、という問題があります。不足分は域外から購入、つまり移入する必要があります。しかし、こればかりだと地域経済は赤字です。(民間経済の)赤字を埋めるための財政移転に頼ることになります。そこで、域外マネーを稼ぐ基盤産業が必要になってきます。過度な自給経済は、コスト高社会を導き生活の質を低下させます。地域の比較優位に基づいて市場性のある財やサービスを創造し、それを地域間交易をする中で便益を高めることができます。

産業構造の識別：指標間の比較

産業の地域特化度

versus

産業の雇用吸収力

地域で特化している基盤産業は、必ずしも雇用を吸収しているとは限らない、むしろそうでない場合が多い。

産業の純移出度

versus

産業の地域特化度

従業者数の特化係数で識別した移出産業（基盤産業）が、実際に外貨を多く獲得しており、かつ移出額が移入額を大きく上回っているか。

産業の付加価値度

versus

産業の雇用吸収力

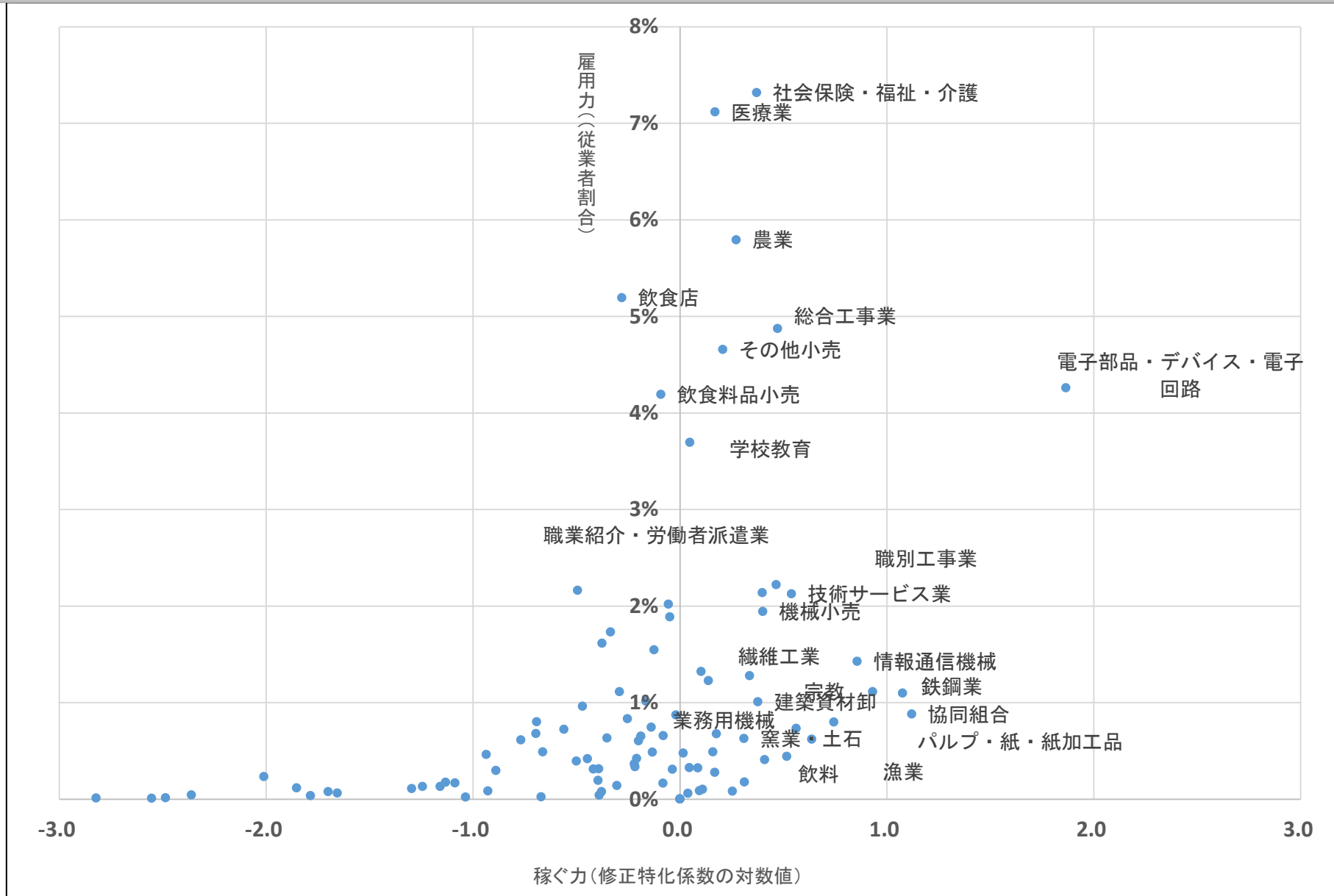
生産額の大きな割合を占める産業と雇用吸収力のある産業の関係。雇用吸収力はあってもそれに見合う付加価値額がない場合は労働生産性が低い。

産業の地域特化度

versus

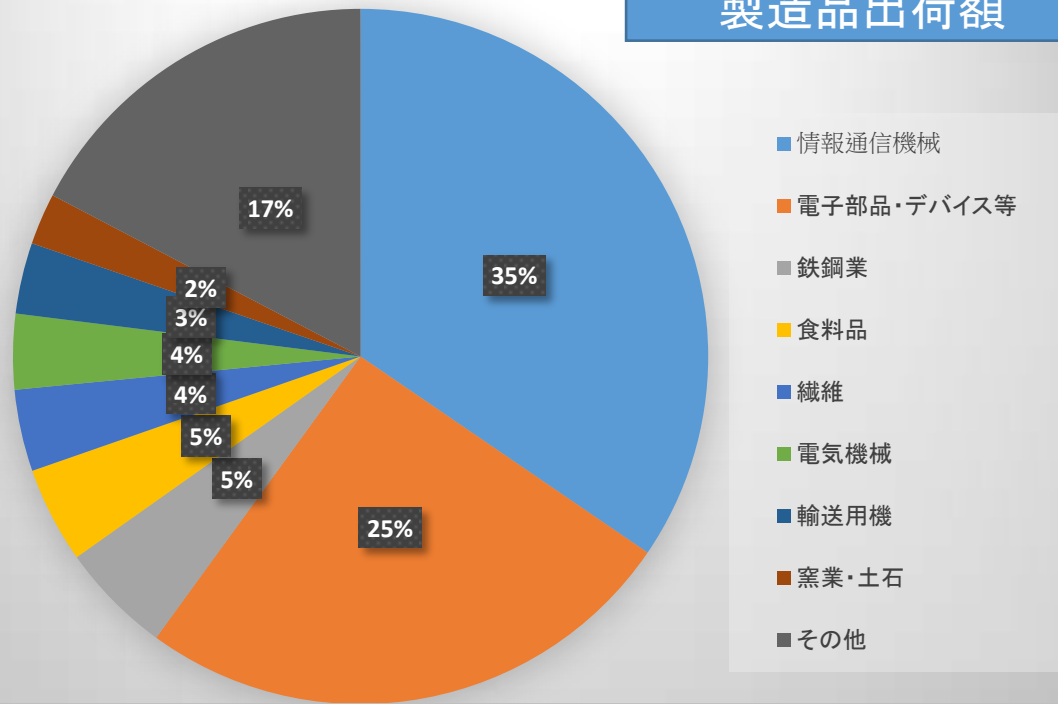
産業の付加価値度

稼働力と雇用力：産業中分類

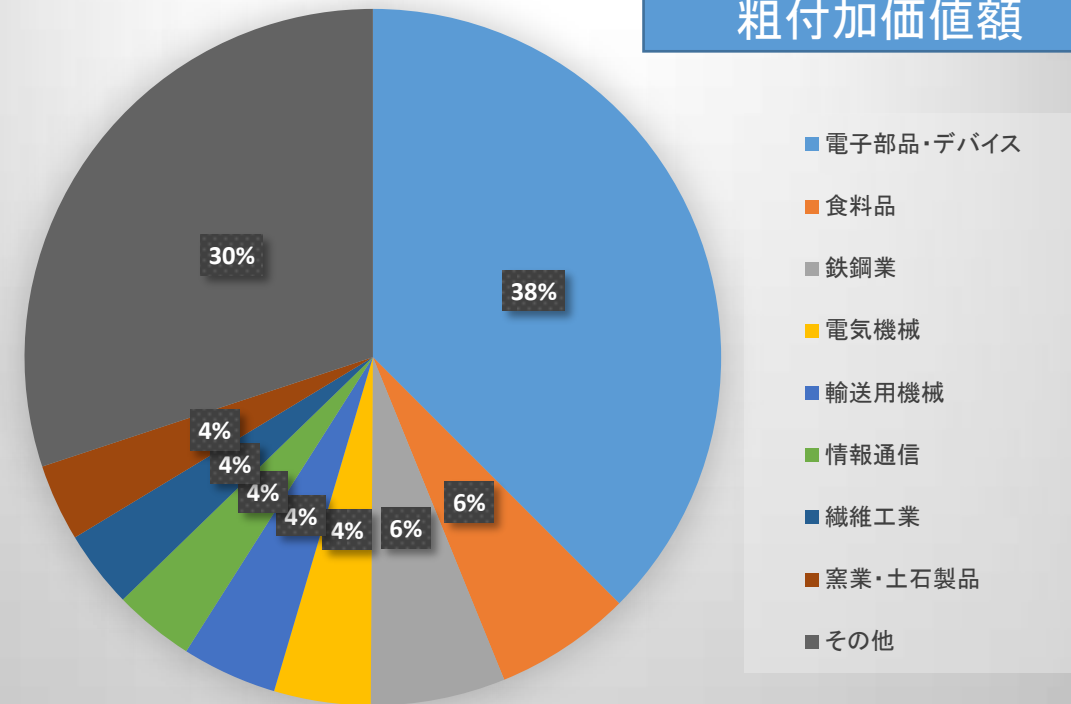


一次産業従業者数は、2010年国勢調査、公営部門の従業者数は、2009年経済センサス基礎調査、民営部門の従業者数は、2012年経済センサス活動調査

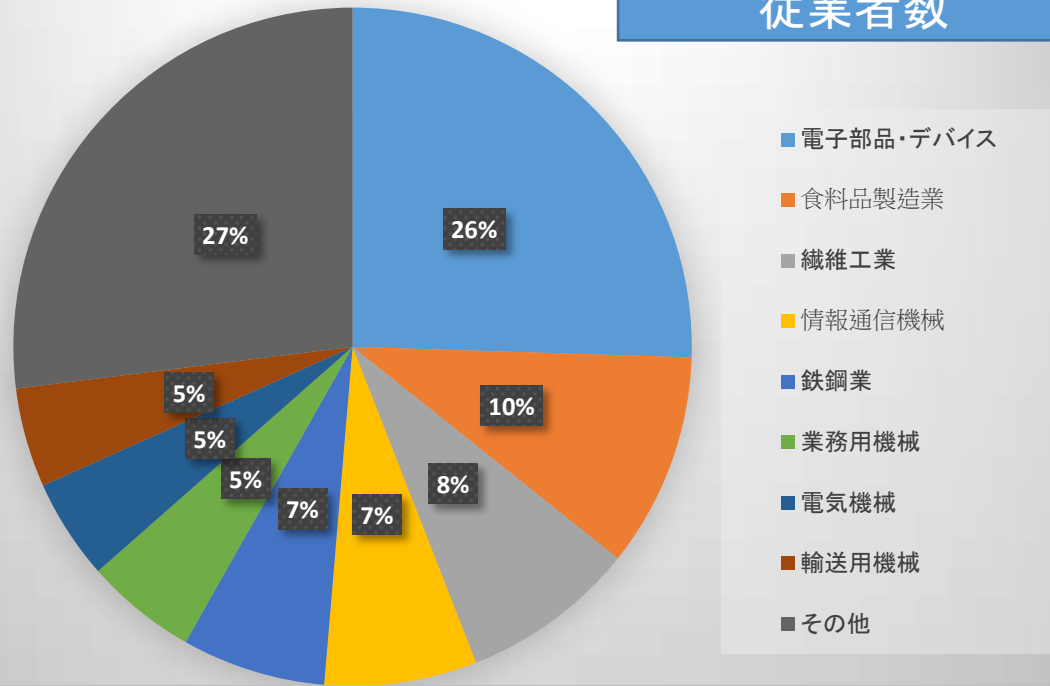
製造品出荷額



粗付加価値額



従業者数



2013年 工業統計表 市町村編

Ⅲ. 地域経済の連関と循環

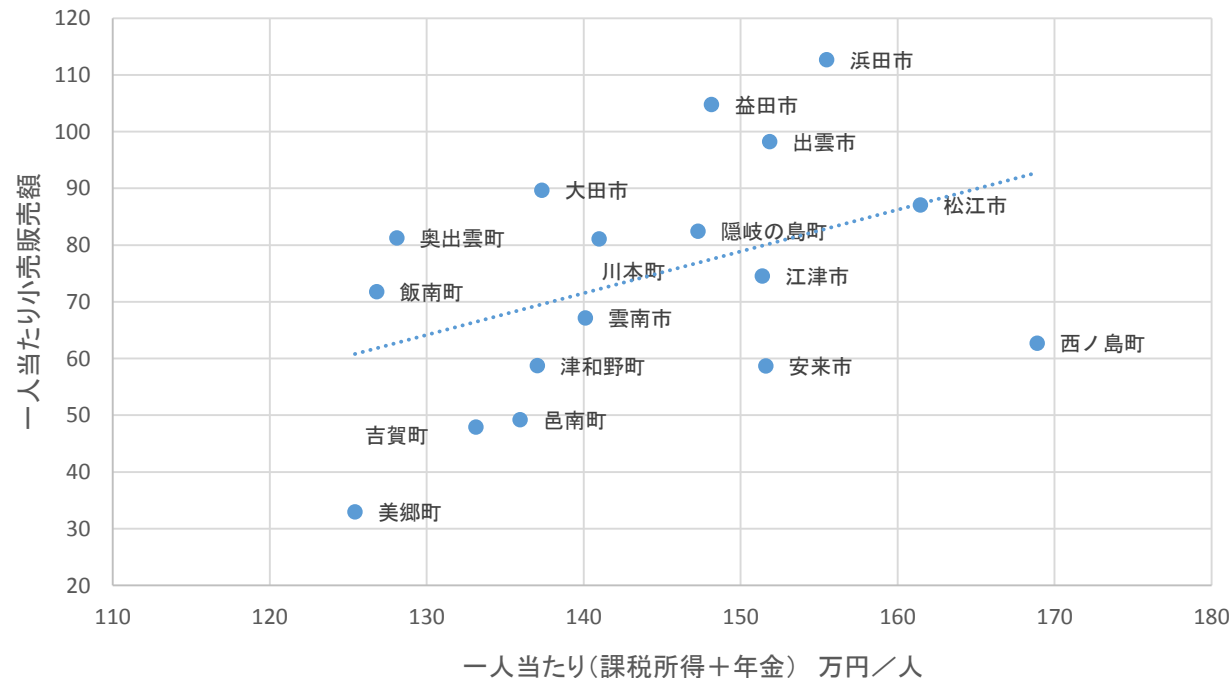
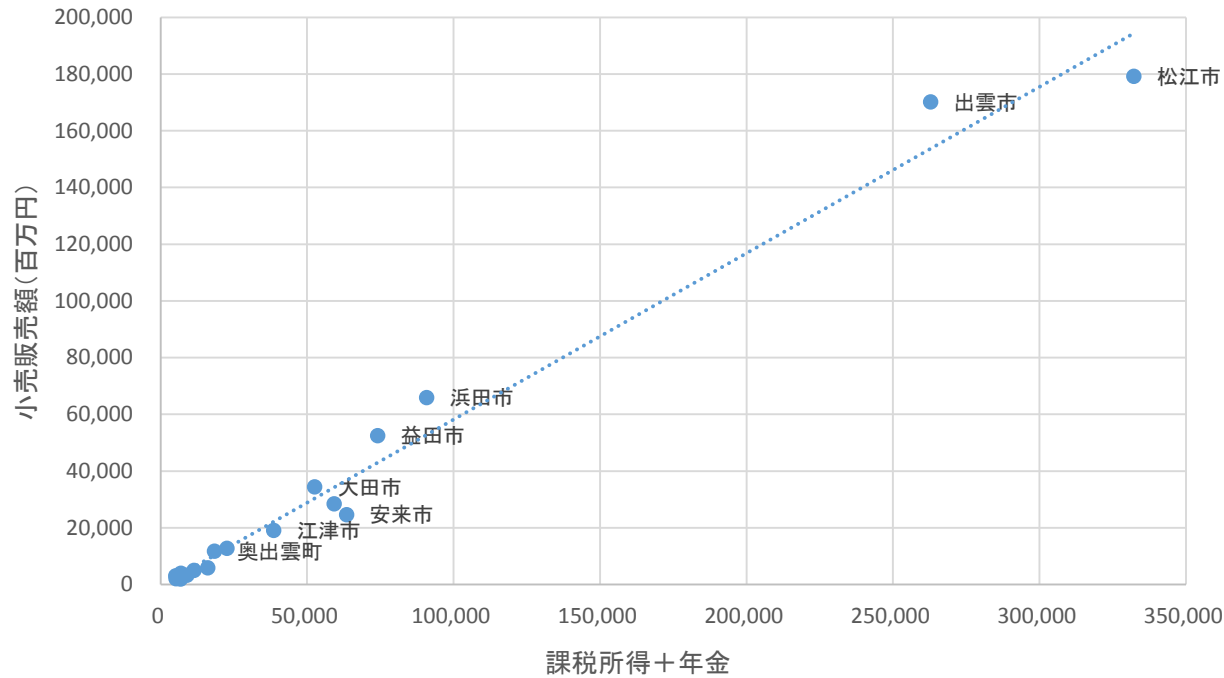
- ① 消費の流出と流入
- ② 連関を見る産業連関表
- ③ 岡山県(旧)赤坂町の簡易版連関表(取引表)
- ④ 出雲市の経済循環 2000年の試算

所得と消費の関係

島根県全体で消費が閉じているという前提で見ると、基準線より上のまちは、消費が流入していると見なせる。

一般に、個人の所得が高いと消費も高くなる傾向がある。

小売り販売額は2011年の商業統計（経済センサス）、人口は住民基本台帳の人口。課税所得は、課税対象所得額。



産業連関表って何？

英語では、Input Output Table という。つまり、経済活動での「投入と産出の表」のこと。

投入とは、2つの概念で

他から購入するという仕入れ概念で、

原材料、エネルギー、素材、部品、保守・点検、輸送、金融、保険のようなサービス、アウトソーシングも

借りる、所有しているという概念で

人、建物や設備、土地

人は雇用する ⇒ 賃金・俸給

建物や設備は購入したもの ⇒ 利用対価として減価償却費（資本減耗）

土地は借りているか持っているか ⇒ 地代

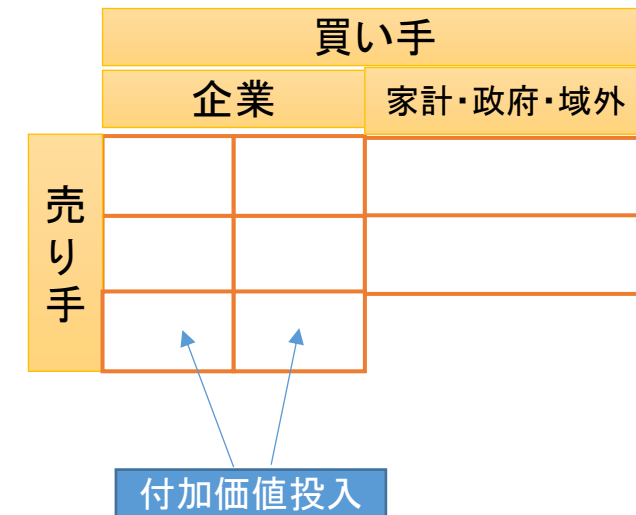
産出とは、出荷額や販売額の概念（ただし、活動ベース）

ここで大事なことは、ものやサービスを

どれだけ購入したのか？ 誰から購入したのか？ どこから購入したのか？

どれだけ販売したのか？ 誰に販売したのか？ どこへ販売したのか？

会計上、投入額と産出額は一致する



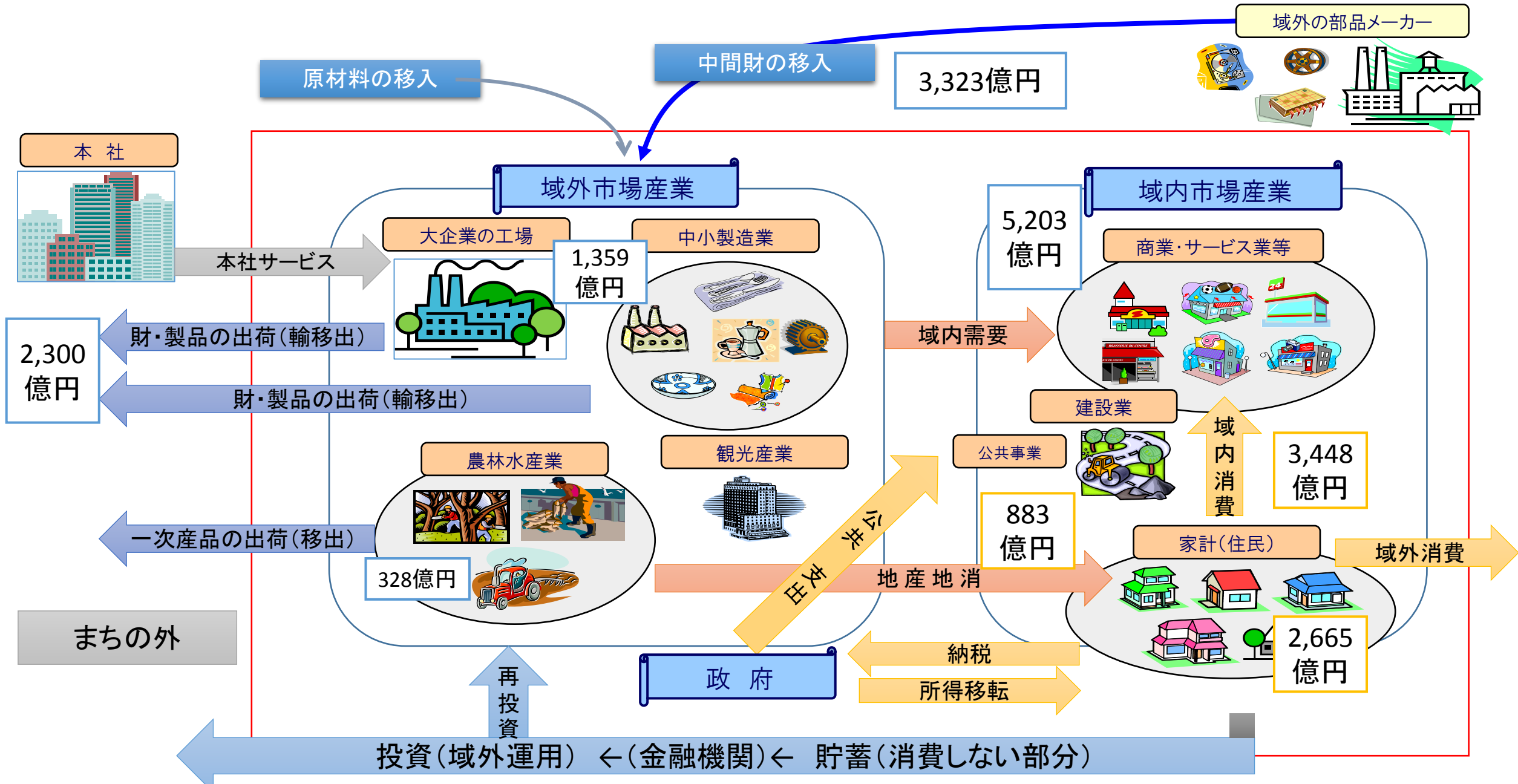
参考：岡山県（旧）赤坂町の製造業のまち内外との取引表

			町内	岡山市	県内	県外	合計
販売	製品		96,642	651,703	67,243	676,190	1491,779
中間 投入	原材料	原材料	1,502	301,721	10,596	177,493	491,312
	営業費 販売費	燃料費	15,583	87	0	167	15,836
		光熱費	37,168	0	0	0	37,168
		印刷費	1,004	630	377	238	2,249
		輸送・卸	3,573	49,566	4,261	5,642	63,042
	修繕費	建物補修	57	0	133	0	189
		機械修理	140	8,826	1,963	1,440	12,368
	金融保険	金融保険	687	14,458	380	4,238	19,763
粗 付加 価値	減価償却	(内部留保のためどの地域にも属さない)					54,693
	賃金報酬	給与報酬	35,857	75,402	133,584	0	244,843
	利潤	営業余剰	155,700	0	0	0	155,700

さくら総研に人口5,000人の赤坂町が委託して3年間調査を実施(ほぼ悉皆調査)。簡易型産業連関表に基づく各種の政策効果をみるシミュレーションもあり、まちの政策評価に貢献！ この間、まちの地方税は伸びた。

平成8年、単位：万円

まちの経済循環システム 2000年の出雲市



産業連関表と地域経済構造分析

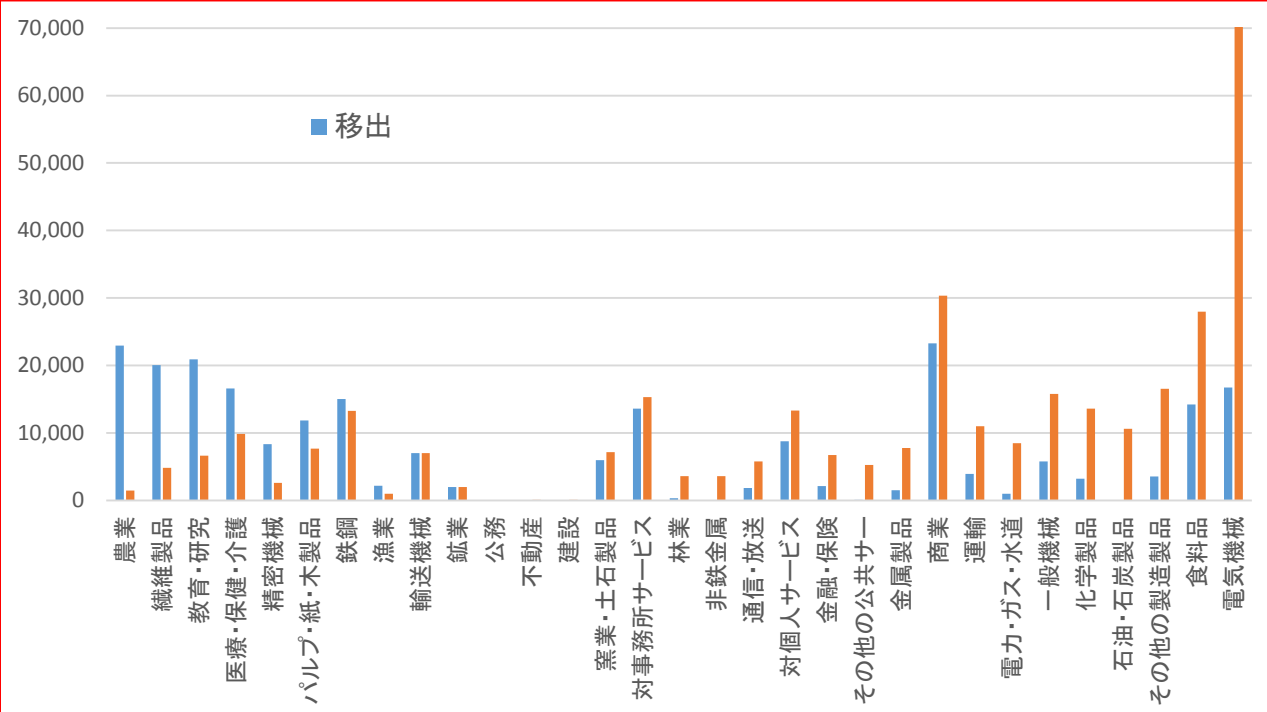
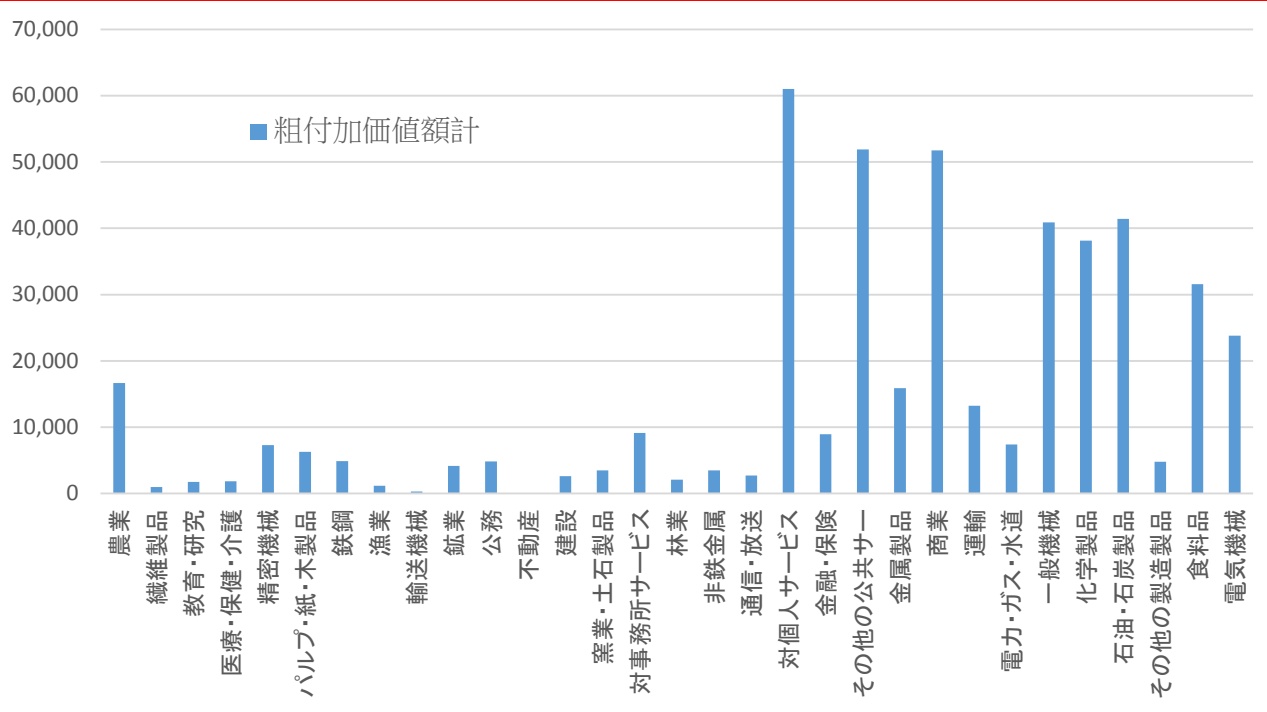
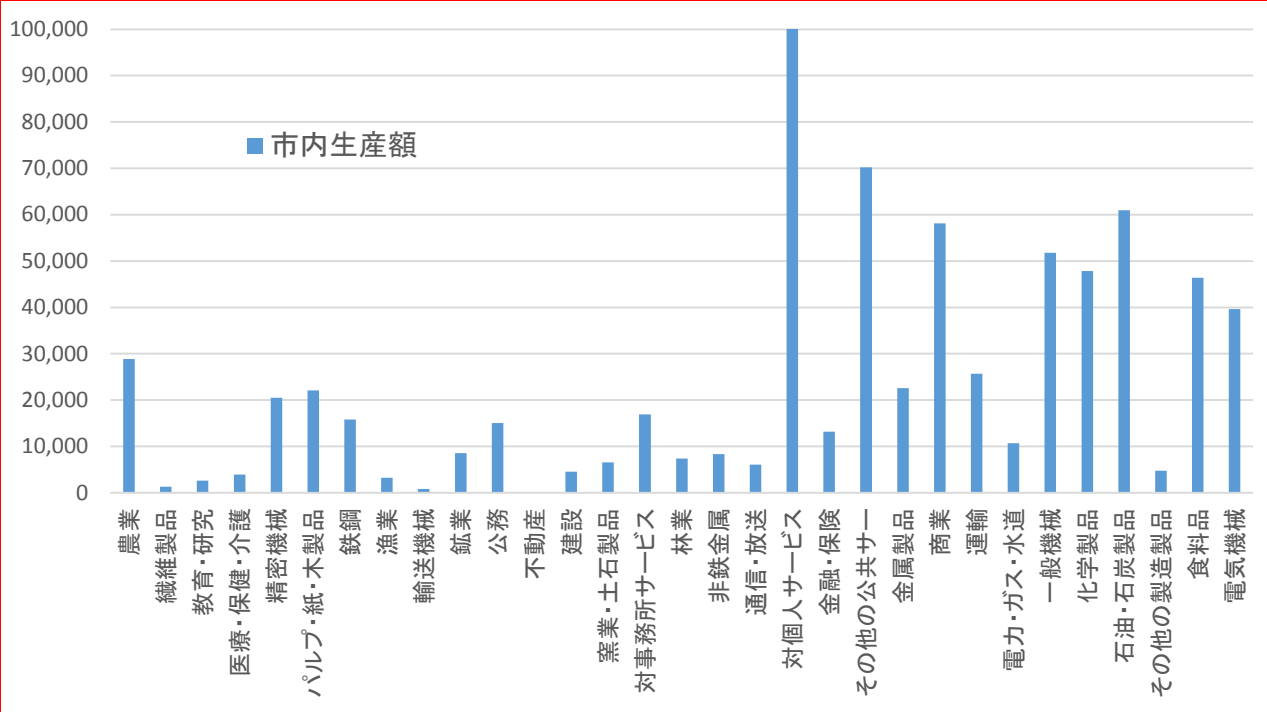
まちの構造改革のシミュレーション

解説 144～164頁

事例 190～216頁

in

「まちづくり構造改革：地域経済構造をデザインする」



2000年 出雲市産業連関表にみる
稼ぐ産業

②供給の潜在能力を調べるストック分析
人材、歴史、文化、環境、資本、……

①地域経済循環構造を調べるフロー分析
産業連関分析、資金循環分析、……

③地域構造の安定性を調べるポートフォリオ分析：リスク・リターン、地域CAPM、……

強み (Strength)
A, B, C, D, ……

Strengthの組み合わせ
での新機軸。相乗効果

機会 (Opportunity)
i, ii, iii, iv, ……

受け止められる体制

SWOT分析

弱み (Weakness)
a, b, c, d, ……

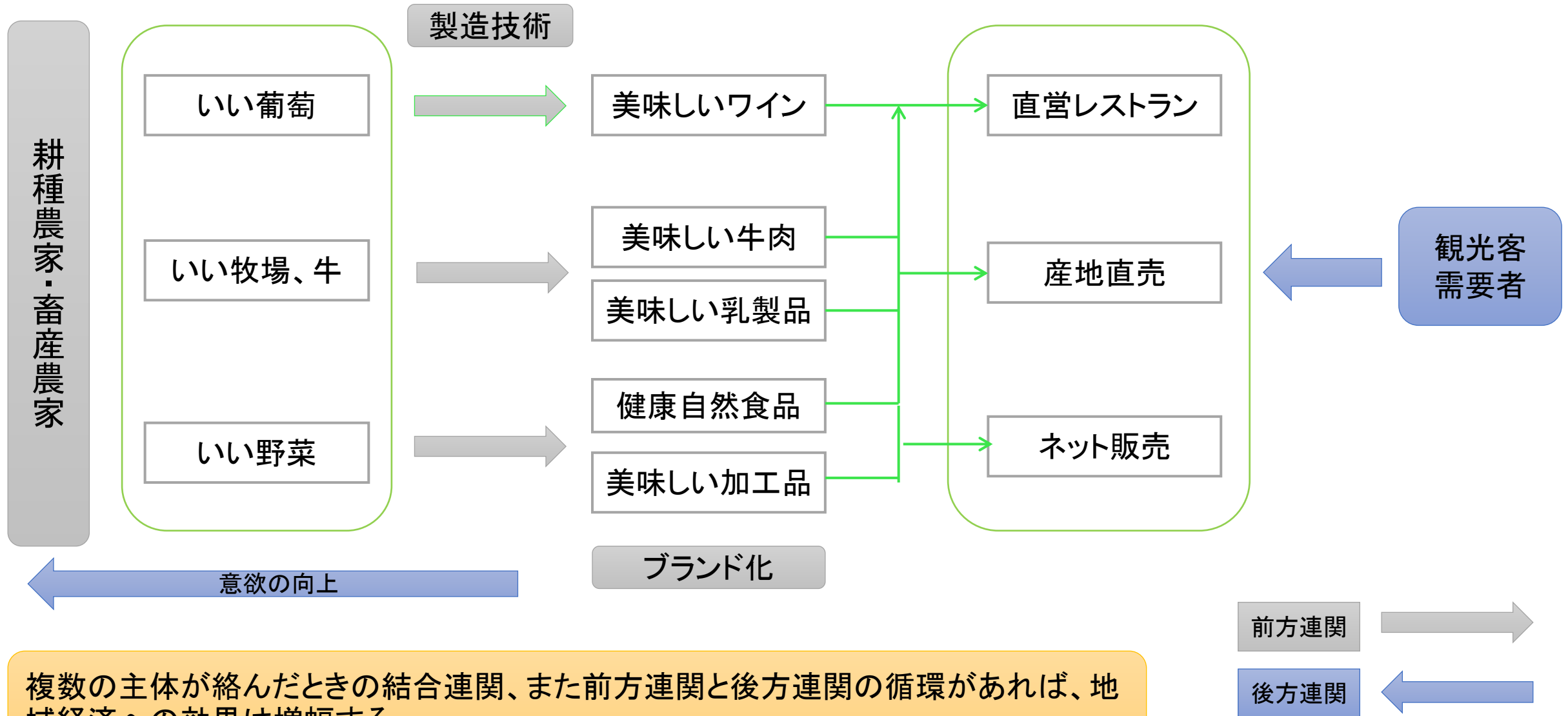
強みに変える、平均ま
で持って行く、維持する

脅威 (Threat)
1, 2, 3, 4, ……

持ちこたえられる
乗り越えられる
Chanceに変える

構造改革シミュレーションでまちの姿を探索

六次産業化における産業連関効果の例



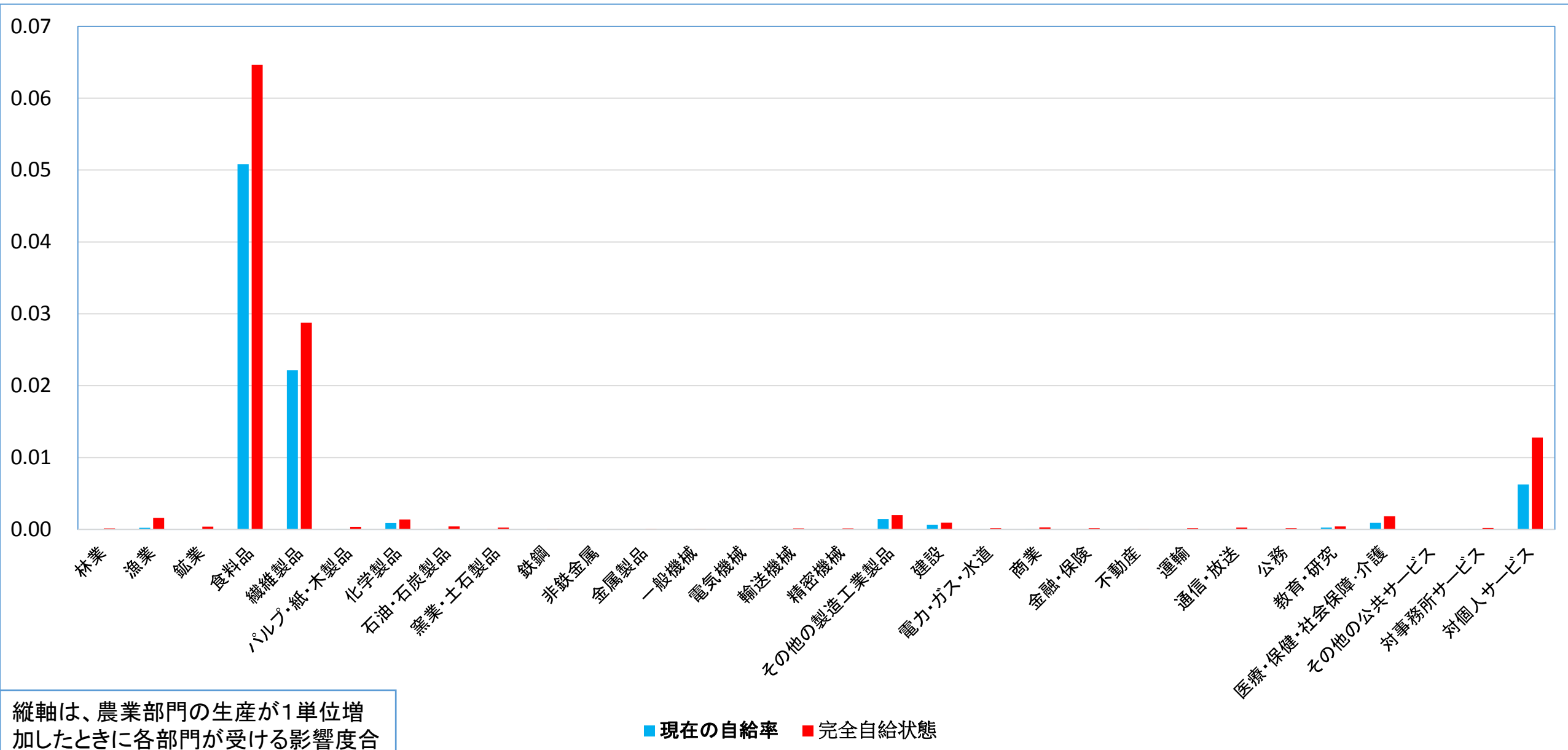
複数の主体が絡んだときの結合連関、また前方連関と後方連関の循環があれば、地域経済への効果は増幅する。

出雲市 農業部門における需要と供給

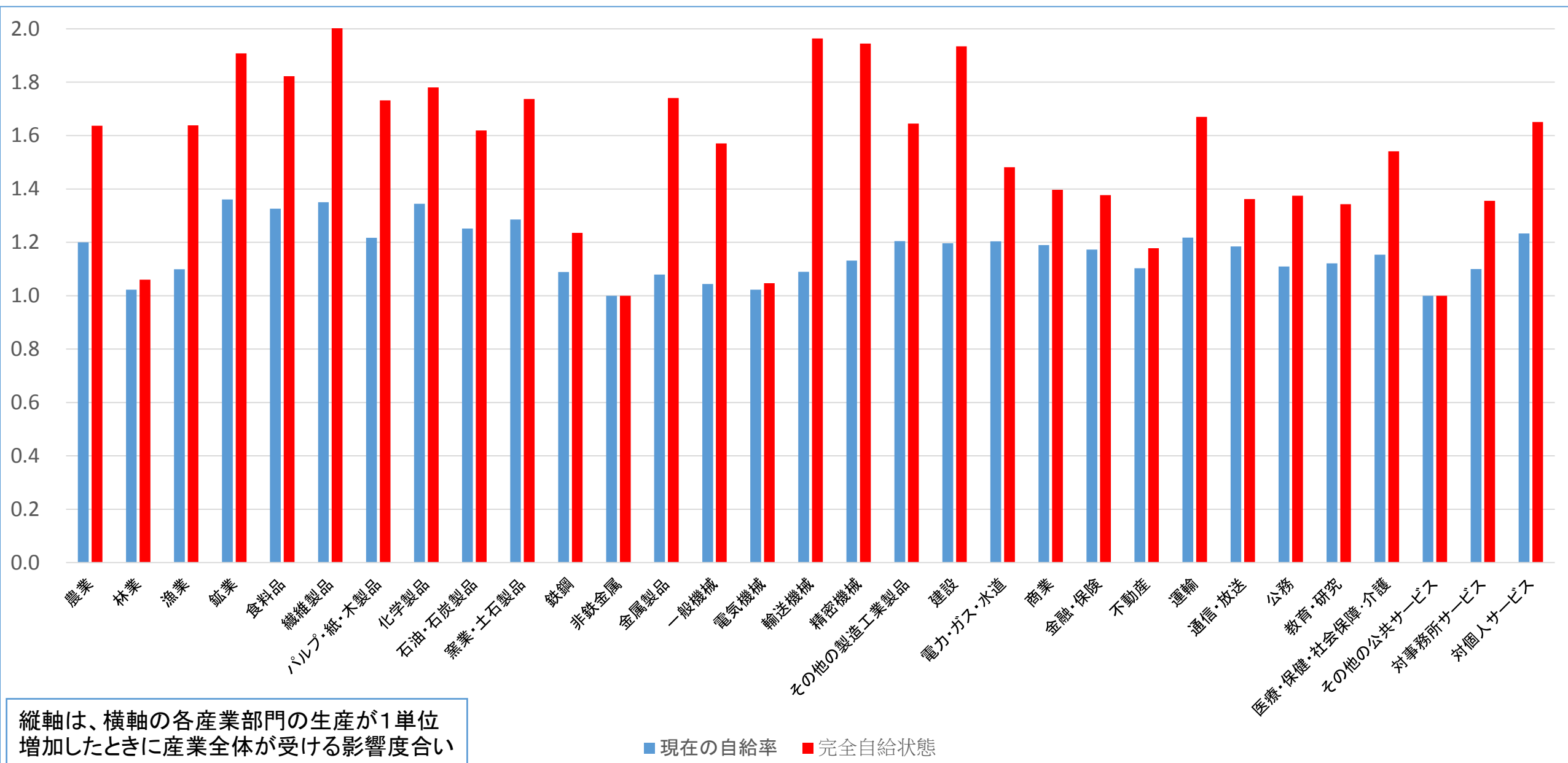
販売先(需要先) どこへ売っているか		購入元(供給先) どこが買っているか	
市 外	75.7 % (22,931/30,306)	農 業	15.4 % (1,875/12,162)
民間消費	9.9 % (2,986/30,306)	食料品製造業	9.4 % (1,235/13,210)
農 業	6.2 % (1,875/30,306)	繊維・衣服	3.7 % (5,781/15,795)
食料品製造業	4.1 % (1,235/30,306)	対個人サービス	1.6 % (257/15,800)
販売先の部門	農産品の域内外からの 需要に占める割合。括弧 内の数値の単位は百万 円。	購入元の部門	購入の中間投入額に占 める農業の割合。括弧内 の数値の単位は百万円。

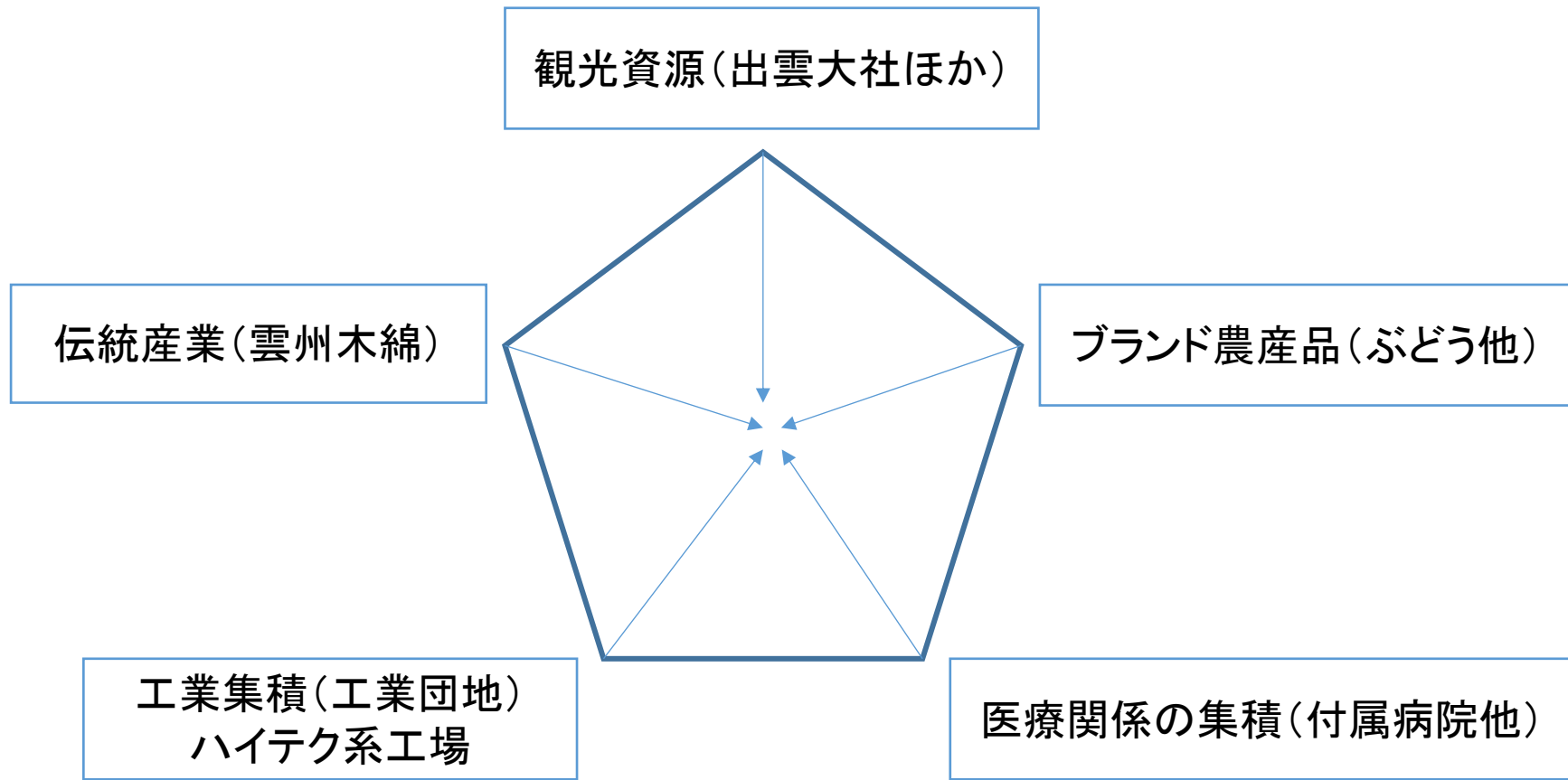
出雲市産業連関表 2000年表

出雲市 農業部門の活性化が他部門へ与える生産効果



出雲市 各産業部門の活性化が産業全体に与える生産効果





出雲市の強みを掛け合わせて、弱みを克服できないか？
これによって、お土産品の素材、サービスの地元調達率の向上
出雲市を中心とした「できる範囲での」循環経済を構築する

工業団地で作った製品をお土産化、一次産品とセット販売、
伝統産業を歴史ストーリー化、教育機関で活用
地元の卸売企業を地方商社化(三セクでも可)して、地域ブランドの海外展開